第46回国民体育大会

成年男子2部を 地元・石川が制す

第46回国民体育大会・石川大会のハンドボール競技は、10月13日から17日までの5日間、石川県小松市の4会場を使用して開催された。

成年男子1部、成年男子2部、成年女子、少年男子、少年女子の5種目で熱戦がくり広げられたが、やはり地元・石川の頑張りが目をひき、各種目とも決勝、準決勝に勝ち残り、成年男子2部では優勝を果たした。

成年男子1部

1回戦

長野 30 〔16−14 / 14−13〕 27 **大阪**
（全長野）　（大阪教員）

〔戦評〕開始早々から両チームとも積極的に点を取り合うシーソーゲームとなる。田中のロングや佐々木の速攻などで得点する大阪に対し、長野は矢島のロングを中心に岩下のサイド、塩川のポストなどで反撃し、前半を16−14でリードする。

後半2分、大阪・前出のサイドで同点とした後は両者譲らず一進一退の攻防が続く。残り10分、長野は小山のポストで2点差とすると大阪の追撃を前出のロング、前田のカットの2点に押さえ初戦をものにした。

	〔大阪〕	得	〔長野〕	得
GK	伊　藤	0	北　嶋	0
GK	高　橋	0	片　桐	0
FP	裕	2	山　浦	2
FP	尾　崎	1	塩　川	5
FP	前　出	2	矢　島	5
FP	佐々木	3	行　田	2
FP	深　松	0	中　篠	0
FP	浄　閑	1	中　島	0
FP	田　中	9	小　山	1
FP	岩　崎	0	小笠原	0
FP	前　田	6	岩　下	6
FP	山　崎	3	鳥　谷	9
		27		30

〔審・松原、武智〕

山形 24 〔8−11 / 16−10〕 21 **熊本**
（東根ク）　（本田技研熊本）

〔戦評〕両チームともよく足が動き、スピーディな攻守が続いた。前半の15分過ぎまでは熊本ペース。一時山形ペースになったが、前半残り3分頃に山形に2人の退場者が出たところを熊本が連取して11−8として前半を折り返した。

後半に入り、斉藤を中心にコンビのとれたオフェンスで10分には山形が同点に追いついた。その後残り3分まで1点を争うシーソーゲームとなったが、27分、28分に斉藤が連取し、3点差としたところで勝負があった。

	〔熊本〕	得	〔山形〕	得
GK	宮　本	0	加　納	0
GK	坂　本	0	比　嘉	0
FP	矢　野	0	五反田	0
FP	寺　島	0	斉　藤	7
FP	三　代	5	水戸部	3
FP	松　村	5	佐　藤	2
FP	田　中	3	荒　木	1
FP	山　口	1	赤　平	4
FP	児　玉	0	小　林	1
FP	大　中	2	阿　部	0
FP	田　中	3	鎌　田	0
FP	堀　内	2	佐　藤	6
		21		24

〔審・島田、後藤〕

香川 30 〔10−11 / 20−9〕 20 **茨城**
（讃岐ク）　（茨城コンドルズ）

〔戦評〕序盤は両チームとも固さが見られ、互いにミスが目立った。10分過ぎから香川造田の速攻やポストを中心に得点をあげるが、茨城はセンター、ポスト、サイドがまんべんなく得点をあげ、1点リードで前半を終る。

後半6分までは予断を許さない展開であったが、中盤10分間得点の止まった茨城に対し、高畠の3連取など7連続得点で一気にペースをつかんだ香川が10点差で逃げ切った。

	〔茨城〕	得	〔香川〕	得
GK	横　田	0	大　橋	0
GK	堀　江	0	大　谷	0
FP	安　田	1	後　井	2
FP	滝　川	3	稲　沢	5
FP	張　替	1	亀　井	5
FP	横　山	2	渡　里	3
FP	吉　井	4	高　畠	3
FP	長谷川	1	浜　田	0
FP	福　嶋	0	造　田	4
FP	小　島	2	渡　辺	0
FP	海老沢	6	谷　口	4
FP			竹　内	4
		20		30

〔審・越田、竹野〕

富山 32 〔13−10 / 19−13〕 23 **北海道**
（全富山）　（北海道選抜）

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも固さからかミスが目立ち、9分までに富山が2点をリードしたが、13分までに北海道が4連取し逆に2点をリードする。富山はセンター金原を軸にした攻撃で20分に同点とし1点を争う展開となった。しかし、前半終了2分前に富山が2連取し、前半を3点リードで終

	〔北海道〕	得	〔富山〕	得
GK	千　葉	0	桜　打	0
GK	山　本	0	須　波	0
FP	岡	2	金　原	8
FP	岡	2	中　山	2
FP	柏　崎	6	小　嶋	3
FP	奥　田	2	矢　田	3
FP	猪　子	0	中　原	2
FP	花　畑	4	上　田	3
FP	小野寺	5	西　田	7
FP	佐　藤	1	森	1
FP	石　橋	1	徳　前	1
FP			山　本	2
		23		32

〔審・松原、武智〕

了した。
　後半、立ち上がりから富山が得点を重ねた。北海道は退場者を出し苦しい展開となり、花畑の得点などで追いすがったが及ばなかった。

沖縄（バームヒルズク）35（16－12、19－12）24 秋田（湯沢ク）

〔戦評〕沖縄は東江のシュートで先行するが、互いに速攻時のミスで波に乗れなかった。3分17秒に東江のシュートで沖縄が2点目。その後は一進一退の攻防で加点し、12分に秋田は高山のシュートで逆転する。しかし攻撃ミスが多く、沖縄に速攻ミスを許し連続得点され4点差となった。
　後半、秋田は斉藤のロングシュート、渡辺のサイドシュートなどでゴールを狙うが、GKの好守に阻まれ波に乗り切れず、7分過ぎよりじりじりと点差が開いた。

得	〔沖縄〕		〔秋田〕	得
0	新城	GK	大沼	0
0	安慶名	GK	下嶋	0
7	下地保	FP	石山	1
9	東江	FP	高橋	3
4	吉浜	FP	山中	0
4	比嘉	FP	高山	0
6	武村	FP	柴田	4
1	大城	FP	高橋	5
3	内原	FP	渡部	4
0	永野	FP	菅	2
1	喜舎場	FP	斉藤	0
0	新城	FP	佐藤	5
35		審・江成・小笠原		24

福岡（北九州ク）26（14－8、12－12）20 岡山（全岡山）

〔戦評〕岡山は積極的に前へつめるディフェンスでよく福岡の攻撃をしのいでいたが、10分過ぎ福岡は岡山ディフェンスの一瞬のスキをついてポスト、カットイン、ミドル、速攻、PTと5連続得点をあげる。一方岡山は、下がり気味の福岡に対して上からシュートを打っていくもGKの好守に阻まれる。この後は、取られたら取り返す展開となり、特に後半は両者ディフェンスの足が止まり気味になり、ロング、ミドル、カットインで点の取り合いになった。結局前半10分過ぎの攻防が試合の明暗を分ける形となった。

得	〔福岡〕		〔岡山〕	得
0	岩崎	GK	大熨	0
0	太田	GK	板野	0
3	浜口	FP	山本	1
2	山崎	FP	石原	0
5	清家	FP	大森	1
4	真鍋	FP	小橋	6
3	福田	FP	中塚	6
0	田尻	FP	山本	2
3	野口	FP	板野	3
0	大久保	FP	片山	0
0	日野	FP	中山	0
6	新谷	FP	上野	1
26		審・高田・田村		20

2回戦

広島（県選抜）38（18－7、20－12）19 長野

〔戦評〕攻守とも勝る広島が序盤より松本の速攻や玉村のロングを中心に得点を重ねた。対する長野も鳥谷越のサイドや塩川のカットインで攻め、残り10分には10－6とし相手が1人退場の機会を得た。しかし、広島は堀田の速攻など連続7得点で一気に17対6とし前半を終った。
　後半に入ると、広島はメンバーを入れ替えながら得点を重ね、残り4分に河原が得点するとフィールドプレーヤー全員が得点することとなり、38－19で広島が勝った。

得	〔広島〕		〔長野〕	得
0	宇田川	GK	北嶋	0
0	多田	GK	片桐	0
3	酒巻	FP	山浦	3
1	河原	FP	塩川	4
7	玉村	FP	矢島	4
5	堀田	FP	行田	3
2	荷川取	FP	中條	1
5	松本	FP	中村	0
2	田中	FP	小山	1
3	野中	FP	小笠原	0
5	西山	FP	岩下	0
5	林	FP	鳥谷越	3
38		審・島田・後藤		19

山梨（日川ク）27（15－13、12－11）24 青森（青商ク）

〔戦評〕開始から互いに点を取り合うゲームであったが、10分あたりから山梨のディフェンスがよく守り速攻につないでリードを奪ったが、青森も粘り強く攻めて点差をつめ、山梨の2点リードで前半を終った。
　後半になって青森のミスが減らないのに対し山梨はミスに乗じて得点を重ね、リードを広げた。しかし青森も追い上げ3点差まで詰め寄ったが、決定力に欠け、山梨の高いディフェンスを崩せずプレーが小さくなりがちであった。山梨は余裕を持った攻撃で終始リードして試合を終った。

得	〔山梨〕		〔青森〕	得
0	辻	GK	天内	0
		GK	中村	0
4	堀	FP	長洞	2
6	古屋	FP	山本	0
1	遠藤	FP	倉内	0
0	菊島	FP	斉藤	4
3	菊島	FP	田辺	5
1	芦沢	FP	張山	3
2	窪川	FP	大村	3
9	中沢	FP	山田	3
1	平山	FP	福島	4
		FP	伊藤	0
27		審・越田・竹野		24

京都（京都ク）31（16－9、15－10）19 山形

〔戦評〕前半15分頃までせり合いが続いたが、京都は全員が足をよく動かし、山形の斉藤中心のオフェンスを守り切り、速攻やセットオフェンスで得点を重ねた。後半、山形は京都の楠本に対してマンツーマンをかけ粘りをみせたが、ノーマークを落とすなどイージーミスもあり、点差をつめれなかった。オフェンス、ディフェンスともに1対1の力の差が出たゲームであった。

得	〔京都〕		〔山形〕	得
0	山下	GK	加納	0
0	咲本	GK	比嘉	1
4	国府	FP	五反田	0
5	佐久間	FP	斉藤	4
5	楠本	FP	水戸部	2
0	川口	FP	佐藤	3
0	池辺	FP	荒木	0
7	西田	FP	赤平	3
4	西村	FP	小林	0
0	中村	FP	阿部	0
3	加藤	FP	鎌田	0
3	清水	FP	佐藤	6
31		審・田村・高田		19

愛知（大同特殊鋼）34（17－6、17－6）12 香川

〔戦評〕愛知は序盤より名取のロ

シグや阿萬の速攻などで着実に加点していった。一方香川も5分過ぎより反撃を開始するが、愛知の高さを攻めあぐね、亀井、高畠のサイドなどで得点するに留まる。
後半に入っても愛知は攻撃の手をゆるめることなくGKを除くプレーヤー全員がそつなく得点し、34—12で勝利をものにした。両チームともにGKが冉三ノーマークを阻止し、得点差のわりには最後まで緊迫したゲームであった。

	香川	得
GK	大橋	0
GK	大谷	0
FP	後井	0
FP	稲沢	2
FP	亀井	2
FP	渡里	3
FP	高畠	4
FP	浜田	0
FP	造田	0
FP	渡辺	0
FP	谷田	1
FP	竹内	0
		12

審・島田・後藤

	愛知	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	酒匂	5
FP	内藤	2
FP	高村	1
FP	朝生	1
FP	阿萬	7
FP	名取	7
FP	宇多村	2
FP	末岡	5
FP	佐藤	4
		34

三重(本田技研鈴鹿) 37 〔21—9, 16—13〕 22 富山

〔戦評〕立ち上がりから富山がプレスディフェンスで守るものの攻撃力に勝る三重が得点を重ね、守ってもGK橋本を中心とした堅いディフェンスで次々とスピードある速攻をくり出し、前半で21—9として試合を決めた。
富山も粘り強く高いディフェンスの間を割り込み得点し善戦であった。

	富山	得
GK	桜打	0
GK	須波	0
FP	金原	9
FP	中山	2
FP	小嶋	2
FP	矢田	2
FP	中原	1
FP	上田	1
FP	西田	2
FP	森	1
FP	徳前	1
FP	山本	1
		22

審・越田・竹野

	三重	得
GK	高木	0
GK	橋本	0
FP	山村	4
FP	香西	0
FP	藤井	3
FP	立木	3
FP	福村	4
FP	内藤	7
FP	大塚	2
FP	梅基	3
FP	田口	0
FP	平松	11
		37

東京(三陽商会) 45 〔20—12, 25—8〕 20 沖縄

〔戦評〕試合開始早々は点の取り合いであったが、総合力で上回る東京が終始安定した力を発揮し勝利を得た。沖縄も随所に素晴らしいプレーが見られたものの地力の差はいかんともしがたく、東京の厚いディフェンスを打ち破ることはできなかった。
後半に入ると点差が開いたため両チームともプレーが荒くなり、警告、退場が多くなった。また、沖縄はマンツーマンをつけたり、プレスディフェンスなど果敢に挑んだが、東京を止められなかった。

	沖縄	得
GK	新城	0
GK	安慶名	0
FP	下地	2
FP	東江	10
FP	吉浜	4
FP	比嘉	0
FP	武村	1
FP	大城	0
FP	内原	1
FP	永野	0
FP	喜舎場	2
FP	新城	0
		20

審・高田・田村

	東京	得
GK	宇田川	0
GK	高橋	0
FP	濱川	0
FP	飯嶋	9
FP	小河原	6
FP	大坪	1
FP	渡辺	1
FP	佐藤	1
FP	濱田	6
FP	湯井	2
FP	田中	12
FP	近藤	7
		45

石川(全石川) 42 〔20—14, 22—15〕 29 奈良(わかくさク)

〔戦評〕奈良は金丸のステップシュートで先行、石川もすぐに真田のポストシュートで同点とする。石川はその後の速攻で相手ゴールを狙うが、ミスが多いためなかなか点差が開かない。しかし奈良も攻撃に決め手がなく、石川がじりじりと点差を広げ3点差とした。
その後17分間互いに点を取り合うシーソーゲームになったが、25分過ぎから古橋のスカイプレーなどで着実に加点し、石川の6点リードで前半終了。
後半は石川の関戸のサイドシュートが決まり出し、石川のペースで試合が進んだ。奈良に負傷者が続出し、追撃し切れず試合終了となった。

	奈良	得
GK	糀	0
GK	森本	0
FP	小林	13
FP	加藤	0
FP	土田	0
FP	小林	5
FP	吉迫	3
FP	金丸	2
FP	村田	0
FP	菅沼	5
FP	谷	0
FP	田中	1
		29

審・前川・秋永

	石川	得
GK	竹中	0
GK	池田	0
FP	土山	6
FP	福田	5
FP	真田	5
FP	関戸	7
FP	園下	2
FP	古橋	5
FP	北岡	8
FP	西田	1
FP	与三野	1
FP	中井	2
		42

埼玉(大崎電気) 38 〔21—6, 17—7〕 13 福岡(北九州ク)

〔戦評〕先取点は福岡がとったが、スピード、パワー、高さで勝る埼玉が、首藤、土屋、宮下らのシュートで着々と加点、試合は埼玉ペースで進んだ。福岡もファイトあふれるプレーで必死に食い下がったが、個人技、コンビプレーともに力の差は明らかで、埼玉の圧勝といえる内容だった。

	福岡	得
GK	岩崎	0
GK	太田	0
FP	浜口	1
FP	山崎	3
FP	清家	2
FP	真鍋	3
FP	福田	0
FP	田尻	0
FP	大久保	1
FP	日野	0
FP	新谷	3
		13

審・浜野・阿部羅

	埼玉	得
GK	矢内	0
GK	渡辺	0
FP	大橋	2
FP	柏崎	1
FP	武田	2
FP	首藤	3
FP	山内	1
FP	魚住	5
FP	甲斐	7
FP	菅田	1
FP	土屋	8
FP	宮下	8
		38

3回戦

広島 46 〔25—6, 21—9〕 15 山梨

〔戦評〕ゲーム開始早々から気合十分の広島の3連続得点で始まったゲームであるが、その後も動きの悪い山梨に対し、広島は次々と相手ミスやパスカットし、玉村、松本などの連続速攻をくり出し、山梨も菊島、中沢などのシュートで得点をあげたものの前半を25—

	山梨	得
GK	辻	0
GK	堀	0
FP	古屋	0
FP	遠藤	1
FP	菊島	1
FP	菊島	2
FP	芦沢	2
FP	窪川	2
FP	中澤	4
FP	平山	3
		15

審・星川・佐東

	広島	得
GK	宇田川	0
GK	多田	0
FP	酒巻	5
FP	河原	7
FP	玉村	9
FP	堀田	8
FP	荷川取	2
FP	松本	5
FP	田中	0
FP	野中	1
FP	西山	7
FP	林	2
		46

6として広島が勝負を決めた。後半も広島が次々と速攻をくり出し大量46点をあげて試合を終了した。

愛知 26（11－6、15－6）12 京都

〔戦評〕京都は10分過ぎからディフェンスをよくがんばり、楠本、佐久間を中心にコンビのあった攻めによって20分過ぎまで3点差で食いついたが、楠本のケガというアクシデントもあり得点は伸びなかった。一方愛知は4－1と滑り出しは良かったが、シュートミスやイージーミスもあり得点も伸びなかった。

後半に入り、国府、楠本をケガで欠く京都は愛知ディフェンスを攻めあぐみ、佐久間、加藤らの6点に押さえ込まれ、大量失点を許した。

	〔京都〕	得
GK	山下	0
GK	咲木	0
FP	国府	0
FP	佐久間	3
FP	楠本	2
FP	川口	1
FP	池辺	1
FP	西田	1
FP	西村	0
FP	中村	0
FP	加藤	3
FP	清水	1
		12

審・秋永、前川

	〔愛知〕	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	酒匂	1
FP	内藤	1
FP	高村	4
FP	朝生	2
FP	阿萬	1
FP	名取	1
FP	宇多村	2
FP	末岡	14
FP	佐藤	0
		26

三重 22（13－7、9－12）19 東京

〔戦評〕前半、三重が平松のサイドで先制すると、東京も飯島のロングで追撃する。その後、三重が1、2点リードしながら試合は進むが、残り15分から三重は山村の速攻や内藤のポストなどで着実に加点し、13－7で前半を終える。

後半に入ると東京はGKを高橋に変え、浜田のロングや田中の速攻でじわじわ追い上げ、10分過ぎには1点差とした。しかし、三重の堅い守りに得点がのびず、また2回の退場があり、三重の逃げ切りを許してしまった。

	〔東京〕	得
GK	宇田川	0
GK	高橋	0
FP	濱川	0
FP	飯島	3
FP	小河原	1
FP	大坪	3
FP	渡辺	4
FP	佐藤	0
FP	濱田	3
FP	湯井	1
FP	田中	4
FP	近藤	0
		19

審・阿部羅、浜野

	〔三重〕	得
GK	高木	0
GK	橋本	0
FP	山村	7
FP	香西	0
FP	藤井	1
FP	立木	0
FP	福村	0
FP	内藤	4
FP	大塚	0
FP	梅基	1
FP	田口	2
FP	平松	7
		22

埼玉 32（14－15、18－11）26 石川

〔戦評〕前半、土屋のサイドシュートで先制した埼玉は、開始3分間でたて続けに3点を奪う。石川も土山のカットインで1点を返した後、真田、福田のミドルで応戦する。その後、宮下、魚住のロングや速攻で優位に戦う埼玉に対し石川もダブルポストからのポストプレーや速攻を中心に多彩な攻めで応酬。石川GK竹中の好守もあって25分に同点、さらに39分真田のシュートで遂に逆転し、石川の1点リードで前半を終わる。

波に乗った石川は後半も得点を重ね、一時3点差まで広げるが、埼玉も徐々に反撃し、疲れの見え始めた石川ディフェンス陣をかわして次々に得点、17分に甲斐のシュートで逆転すると粘る石川をふり切ってそのまま逃げ切った。

	〔石川〕	得
GK	竹中	0
GK	池田	0
FP	土山	8
FP	福田	7
FP	真田	6
FP	関戸	1
FP	園下	3
FP	古橋	0
FP	北岡	1
FP	西田	0
FP	興三野	0
FP	中井	0
		26

審・松原、武智

	〔埼玉〕	得
GK	矢内	0
GK	渡辺	0
FP	大橋	0
FP	柏崎	0
FP	武田	0
FP	首藤	5
FP	山内	1
FP	魚住	2
FP	甲斐	9
FP	菅田	3
FP	土屋	3
FP	宮下	9
		32

準決勝

広島 29（13－11、16－10）21 愛知

〔戦評〕立ち上がり、広島の河原、酒巻のシュートで2点を先行し、その後も広島のペースで10分過ぎまで6－2とリードする。ところが11分頃から広島の攻撃が単調になり、愛知の高いディフェンスラインに阻止され、名取の逆速攻から連続6得点し、愛知が逆に2点をリードした。ペースのつかめない広島であったが、25分、広島・酒巻のステップシュートなどで5連取し、13－11と広島が2点をリードして前半を終えた。

後半は広島が立ち上がりから足がよく動き、6連続得点してその差をキープ、逃げ切った。

	〔愛知〕	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	酒匂	4
FP	内藤	0
FP	高村	3
FP	朝生	2
FP	阿萬	0
FP	名取	4
FP	宇多村	0
FP	末岡	6
FP	佐藤	2
		21

審・武智、松原

	〔広島〕	得
GK	宇田川	0
GK	多田	0
FP	酒巻	6
FP	河原	5
FP	玉村	7
FP	堀田	2
FP	荷川取	2
FP	松本	0
FP	田中	2
FP	野中	0
FP	西山	4
FP	林	1
		29

三重 23（11－11、12－10）21 埼玉

〔戦評〕開始直後、GK矢内の好守でリードを奪った埼玉であったが、ペースに乗った三重は同点に追いつき、その後両者譲らず前半を終了。

後半に入ると逆にGK橋本を中心とした三重の堅いディフェンスが埼玉の高い打点のシュートをよく防ぎ速攻につなぎ試合の主導権を握った。その後は両者ともミスをせず確実な攻守を展開し、3点差のまま26分を過ぎた。しかし、埼玉がよく粘り、残り30秒で1点

	〔埼玉〕	得
GK	矢内	0
GK	渡辺	0
FP	大橋	0
FP	柏崎	0
FP	武田	2
FP	首藤	4
FP	山内	0
FP	魚住	5
FP	甲斐	4
FP	菅田	3
FP	土屋	1
FP	宮下	2
		21

審・幸塚、光安

	〔三重〕	得
GK	高木	0
GK	橋本	0
FP	山村	4
FP	香西	0
FP	藤井	2
FP	立木	1
FP	福村	1
FP	内藤	6
FP	大塚	5
FP	梅基	0
FP	田口	2
FP	平松	2
		23

差に追いつきマンツーマン・ディフェンスをかけたが逆に点を取られ惜しくも敗れてしまった。

3位決定戦

埼玉 28 〔10−16 18−2〕 18 愛知

〔戦評〕愛知は立ち上がりから宇多村、高村の活躍で10分には8−3とリードする。埼玉も首藤、宮下を中心に反撃し2点差まで詰め寄るが、残り10分から愛知は酒匂、末岡のロングなどで得点を重ね、守っては埼玉の攻撃を魚住のサイド1点に押さえ6点差で前半を折り返す。

〔愛知〕	得		〔埼玉〕	得
秋吉	0	GK	矢内	0
林	0	GK	渡辺	0
酒匂	2	FP	大橋	1
高村	5	FP	柏崎	0
朝生	0	FP	武田	2
阿萬	0	FP	首藤	7
名取	1	FP	山内	0
宇多村	4	FP	魚住	6
末岡	5	FP	甲斐	4
佐藤	1	FP	菅田	2
		FP	土屋	1
		FP	宮下	5
	18			28

〔審・阿部羅・浜野〕

後半に入るとGK矢内を中心に守りを固めた埼玉が武田、宮下の速攻など8連続得点で15分には一気に2点差をつけリードする。愛知も末岡のステップで1点差とするが、埼玉の猛攻はとどまるところを知らず、おもしろいように得点を重ね、28−18の大差で埼玉が3位入賞を果たした。

決勝

広島 30 〔14−7 16−5〕 12 三重

〔戦評〕広島・河原のカットで幕をあけた成年男子一部の決勝戦は三重・田口の好配球から山村のサイド、福村のミドルを引き出すが玉村をトップに起用した広島の1・2・3ディフェンスを崩すに至らず苦戦をしいられた。一方広島は、堅いディフェンスからの速攻やセットオフェンスでのバランスの良い攻めによりスターティングメンバーが全員得点するなど好調な前半であった。

後半、三重は立木をオフェンスに起用し、広島ディフェンスを崩しにかかるが、うまくかみ合わず流れを変えることはできなかった。

〔三重〕	得		〔広島〕	得
高木	0	GK	宇田川	0
橋本	0	GK	多田	0
山村	3	FP	酒巻	4
香西	0	FP	河原	5
藤井	0	FP	玉村	2
立木	1	FP	堀田	6
福村	1	FP	荷川取	5
内藤	2	FP	松本	1
大塚	0	FP	田中	0
梅基	0	FP	野中	1
田口	3	FP	西山	5
平松	2	FP	林	1
	12			30

〔審・後藤・島田〕

成年男子2部

1回戦

三重（オールホンダ） 31 〔15−11 16−9〕 20 大阪（日鉄建材）

〔戦評〕前半、速攻に勝る三重が優位に立ち、15分以降ダブルポストからセンタースリーに変え、セットプレーでも左45度で佐々木が得点しだし、15−11と大阪をリードした。

後半、波に乗る三重は着実に得点し、31−20と快勝した。

〔大阪〕	得		〔三重〕	得
古里	0	GK	奈須	0
田中	0	GK		
谷内	2	FP	後藤	4
久保田	0	FP	小野寺	4
阪中	1	FP	船谷	4
島	2	FP	佐々木	6
鹿嶌	1	FP	平井	1
坂井	6	FP	木下	4
丸井	3	FP	永谷	4
山口	3	FP	小池	4
上山	2			
杉本	0			
	20			31

〔審・佐塚・内藤〕

宮崎（全宮崎） 19 〔8−12 11−5〕 17 東京（同球会）

〔戦評〕前半15分までは牧野、下戸成のシュートなどで東京が着々と得点を重ねる。その後、宮崎もGK北林の好守と速攻を中心とした反撃で一時1点差まで詰め寄るが、前半は東京が4点をリードして終了した。後半に入ると、宮崎は富永、木切倉のシュートなどで反撃を開始、後半25分には遂に逆転した。その後も宮崎の勢いは衰えず、残り1分には押川のとどめのシュートで2点差とし、東京に逆転勝ちを収めた。

〔東京〕	得		〔宮崎〕	得
大城	0	GK	和田	0
高橋	0	GK	北林	0
飯田	3	FP	吉留	3
木野	1	FP	百田	0
牧野	1	FP	温水	1
中井	0	FP	本石	0
大庭	3	FP	本部	0
下戸成	4	FP	押川	3
平岡	3	FP	渡辺	5
三尾	1	FP	木切倉	5
古川	0	FP	有田	0
山田	1	FP	富永	2
	17			19

〔審・松原・武智〕

福井（北陸電力） 38 〔17−17 21−14〕 31 福島（福島教員）

〔戦評〕福井・藤坂のミドル、田中のサイドシュートに対し、福島

〔福島〕	得		〔福井〕	得
福島	0	GK	熊本	0
糸井	0	GK	竹内	0
斉藤	3	FP	手塚	1
佐藤	0	FP	大石	0
斉藤	0	FP	近葉	0
矢作	9	FP	鍛原	1
田川	9	FP	角谷	2
濱津	0	FP	田中	10
永久保	0	FP	前田	2
最上	5	FP	北村	6
遠藤	4	FP	藤坂	11
二瓶	1	FP	川上	5
	31			38

〔審・佐塚・内藤〕

は矢作のカットイン、田川が確実にペナルティーを決め譲らず、17−17で前半を終了。
後半も一進一退の攻防が続いたが、15分過ぎから福井はセットに加え速攻が決まり出し、ペースをつかみ、大応援団の声援にも乗って徐々にリードを広げていった。

埼玉（埼玉フェニックス）30（11−11 19−11）22 山口（徳山曹達）

〔戦評〕前半5分過ぎまではシーソーゲームが続いたが、その後5分間埼玉が4連続得点をあげペースを握るかに見えたが、10分過ぎから山口も反撃、連続5点をあげ再度逆転する。残り10分を切り、ややパス、シュートにミスが目立ち、お互いにペースをつかみきれないまま同点で前半を終了する。
後半に入ってもGKの再三の美技により一進一退の攻防が続くが、9分過ぎあたりから埼玉は速攻からのボールがつながり始め、サイド、ポストシュートなどで着実に得点を重ね完全にペースを握りそのまま押し切った。

得	〔埼玉〕		〔山口〕	得
0	阿部	GK	藤本	0
0	菊地	GK	村上	0
7	寿川	FP	清水	2
0	山口	FP	重永	0
3	野口	FP	前田	0
3	宮沢	FP	湊	2
1	古平	FP	中原	1
2	山田	FP	広中	2
3	井川	FP	中村	1
2	細津	FP	中村	3
2	土屋	FP	東	2
7	堤	FP	湯浅	9
30				22

審 光安・幸塚

熊本（本渡ク）32（12−13 13−12 3−2 4−3）30 愛知（トヨタ車体）

〔戦評〕立ち上がり愛知・野田のカットイン、河合のロングシュートなどで4−1とし一方的かと思われたが、サイド宮崎のシュートからリズムに乗った熊本は13分、鶴田、宮崎らの連続ゴールで5−5とした。その後両チームともよく走り、前半を13−12と愛知の1点リードで折り返した。
後半に入り、熊本・伊吹、愛知・君島らのシュートで二転三転する好ゲームとなったが、11分熊本GK吉永の好守などで一時は3点差とするが、愛知も長野のポストなどで同点に追いつき、点の取り合いのまま25−25の同点で延長に入った。
延長に入り、熊本GK吉永の好守で愛知のシュートがことごとく阻まれ、着実に鶴田、鎌田らのシュートで加点した熊本が2点差で逃げ切った。

得	〔熊本〕		〔愛知〕	得
0	吉永	GK	宮田	0
0	若林	GK	渡辺	0
0	山下	FP	野田	2
5	宮崎	FP	君島	6
0	臼木	FP	長野	5
8	鶴田	FP	崎野	0
1	船元	FP	河合	6
8	鎌田	FP	岡部	9
4	川崎	FP	酒井	2
2	若田	FP	平野	0
4	浦田	FP	寺沢	0
0	山下	FP	寺島	0
32				30

審 星川・佐東

神奈川（全神奈川）28（13−10 15−10）20 京都（京都教員鴨川ク）

〔戦評〕立ち上がり神奈川・山田のロングシュート、京都・中島のロングシュートで始まり、20分まで9−9のシーソーゲームとなった。その後、7分間無得点の後、神奈川・黒沢の速攻を機に奥西らのシュートで前半13−10と3点リードで折り返した。
後半に入り、京都・越智、谷口のカットイン、サイドシュートに対し、神奈川・大竹・福田のロング・ポストシュートと両チームとも加点していったが、19分頃から神奈川が4連続得点をするなど着実に加点し、28−20で京都を降した。

得	〔神奈川〕		〔京都〕	得
0	井上	GK	辻	0
0	上條	GK	川勝	0
2	黒沢	FP	中嶋	4
2	鈴木	FP	福地	2
4	山田	FP	奥西	0
0	吉岡	FP	川勝	1
0	遠藤	FP	福田	2
1	清水	FP	角井	2
5	福田	FP	越智	2
6	大竹	FP	北	1
8	江成	FP	谷口	5
0	高橋	FP	森田	1
28				20

審 幸塚・光安

愛媛（愛媛選抜）28（13−12 15−11）23 北海道（函館選抜）

〔戦評〕立ち上がり、速攻、カットインからのサイドシュートで着実に加点する愛媛に対し、北海道はパスミス、キャッチミスが多くやや動きに固さが見られた。しかし、10分過ぎからGK鈴木善の好守に始まり、鈴木直のサイド、反田のロングなどで追撃を開始し、一進一退のまま13−12で前半を終えた。
後半に入り、愛媛・田屋、北海道・鈴木直のロングの打ち合いなど見応えのある展開になったが、速攻の衰えない愛媛に対し足の止まった北海道は攻撃が単調になり、徐々に差を広げられた。終盤、北海道は速攻で追いすがったが、愛媛GKの好守にあい追い上げはならなかった。

得	〔愛媛〕		〔北海道〕	得
0	松井	GK	鈴木	0
0	阿部	GK	笹川	0
3	横山	FP	堤	0
4	田屋	FP	清水	0
0	細谷	FP	宮原	0
7	奥村	FP	稲田	4
0	豊田	FP	反田	5
2	林	FP	関根	1
2	網本	FP	安彦	4
4	親本	FP	鈴木	6
0	徳永	FP	渡部	3
6	八百城	FP	鳶澤	0
28				23

審 星川・佐東

石川（全石川）30（12−13 18−10）23 岩手（松ノ葉ク）

〔戦評〕開始早々、岩手はサイド、ロングシュートを連続して決め試合の主導権を握った。地元石川は熱い声援の中、緊張からか動きが固く、パスミス、シュートミスが目立ち、逆速攻を受けるなど10分過ぎには6−1と一方的な展開となった。しかし、吉田洋のカットイン、古谷のサイドシュートをつかんだ石川は速攻を盛り返し、一進一退のまま前半を13−12で折り

返した。
後半に入るとすぐ、石川は吉田洋の連続シュートで逆転に成功すると動きが良くなり、速攻、カットインからのシュートと多彩な攻撃で着実に得点を重ねていった。岩手も再三いい形をつくるがGK秋田の好守に阻まれ追加点を重ねることができず、終盤にかけて速攻で追い上げたが石川の勢いを止めることができなかった。

〔岩手〕	得		〔石川〕	得
高橋	0	GK	秋田	0
工藤	0	GK	北	0
西郷	0	FP	松本	4
北条	1	FP	吉田	9
岸波	4	FP	吉谷	4
八重樫	3	FP	伊吹	6
永山	0	FP	大壁	0
川村	1	FP	泉	3
蒲生	6	FP	瀬戸	0
斉藤	1	FP	堀戸	0
平沢	3	FP	吉田	1
高橋	4	FP	福田	3
	23			30

〔審・松原 武智〕

2回戦

宮崎 27〔13－10 14－7〕17 三重

〔戦評〕GK北林を中心に闘志あふれる宮崎ディフェンスの前に三重はシュートが決まらず、終始宮崎リードで13－10で前半を終了。
三重は後半5分に1点差まで追い上げたが、宮崎GK北村の再三の好守に阻まれ得点できず、あせりからミスを連発、逆に宮崎は速攻を確実に決め10点差をつけ快勝した。

〔三重〕	得		〔宮崎〕	得
奈須	0	GK	和田	0
		GK	北林	0
後藤	6	FP	吉留	4
小野寺	1	FP	百田	1
船谷	2	FP	温水	0
佐々木	3	FP	本石	0
平井	0	FP	本部	1
木下	3	FP	押川	6
永谷	2	FP	渡辺	8
小池	0	FP	木切倉	5
		FP	有田	1
		FP	冨永	1
	17			27

〔審・幸塚 光安〕

埼玉 35〔15－10 20－11〕21 福井

〔戦評〕前半、両チームのサイドシュートから試合が展開するが、8分過ぎから埼玉・堤のロング、山田のポストシュートなどが次々と決まりだし中盤は埼玉ペースの試合となる。福井はチャンスをつかむものの埼玉GK菊地の好守でなかなか点差を詰めることができなかったが、残り5分あたりから4連続得点をあげ15－10としたところで前半を終了する。
後半に入ると埼玉が再びペースをつかみ、得点差は開く一方の試合内容となる。福井も必死に反撃を試みるが、埼玉は山田をはじめとし巧みなパスプレーを展開、さまざまなポジションからのシュートを確実に決め、中盤近くまでに10点のリードを奪い、危げなく勝利を収めた。

〔福井〕	得		〔埼玉〕	得
熊本	0	GK	阿部	0
竹内	0	GK	菊地	0
手塚	2	FP	寿川	5
大石	0	FP	山口	1
近葉	0	FP	野口	4
鍛原	0	FP	宮沢	1
角谷	2	FP	古平	1
田中	4	FP	山田	5
前田	0	FP	井川	2
北村	3	FP	細津	4
藤坂	8	FP	土屋	3
川上	2	FP	堤	9
	21			35

〔審・佐塚 内藤〕

神奈川 33〔19－15 14－7〕22 熊本

〔戦評〕前半15分までは1点を争う緊迫したゲームだったが、2本連続速攻を決めた神奈川がペースをつかみ、山田のミドルシュート、江成のロングシュートなども決まり19－15と前半をリードした。
後半立ち上がり、神奈川はGK井上の好守により波に乗り、試合を優位に進め、33－22と快勝した。

〔熊本〕	得		〔神奈川〕	得
吉永	0	GK	井上	0
若林	0	GK	上條	0
山下	0	FP	黒沢	3
宮崎	3	FP	鈴木	6
臼木	0	FP	山田	7
鶴田	1	FP	吉岡	1
船元	0	FP	遠藤	1
鎌田	4	FP	清水	0
川崎	4	FP	福田	5
若田	7	FP	大竹	4
浦田	2	FP	江成	5
山下	1	FP	高橋	1
	22			33

〔審・幸塚 光安〕

石川 26〔15－7 11－13〕20 愛媛

〔戦評〕初戦とはうって変わって動きの軽快な石川、5分過ぎには吉田洋の連続シュートなどで着々と得点を重ねる。これに対し愛媛は攻撃が単調となり、石川GK秋田の好守にも阻まれて得点が入らない。前半は石川の8点リードで終了した。
後半に入ると、愛媛は田屋、親本のシュートなどで反撃開始。速攻も決まり、一時は4点差にまで追い上げる。途中やや足の止まっていた石川も残り10分を切って勢いを取り戻し、前半のリードを保った石川が6点差で勝った。

〔愛媛〕	得		〔石川〕	得
松井	0	GK	秋田	0
阿部	0	GK	北	0
横山	2	FP	松本	4
田屋	5	FP	吉田	7
細谷	0	FP	古谷	3
奥村	0	FP	伊吹	1
豊田	0	FP	大壁	2
林	5	FP	泉	2
網本	0	FP	瀬戸	0
親本	2	FP	堀戸	1
徳永	1	FP	吉田	2
八百城	5	FP	福田	4
	20			26

〔審・佐塚 内藤〕

準決勝

宮崎 24〔13－11 11－7〕18 埼玉

〔戦評〕両チームとも出足は固かったが、6分過ぎからシュートの打ち合いとなった。宮崎は9分過

〔埼玉〕	得		〔宮崎〕	得
阿部	0	GK	和田	0
菊地	0	GK	北林	0
寿川	1	FP	吉留	6
山口	3	FP	百田	0
野口	1	FP	温水	0
宮沢	2	FP	本石	0
古平	1	FP	本部	1
山田	4	FP	押川	4
土川	1	FP	渡邊	6
細津	1	FP	木切倉	5
土屋	1	FP	有田	0
堤	3	FP	富永	2
	18			24

〔審・佐野 中村〕

ぎ木切倉のカットインで逆転すると押川のロングなどで得点を重ねた。一方、埼玉も堤のロングなどで反撃、前半は13—11と宮崎がリードした。
　後半は一進一退の攻防が続いたが、22分過ぎ宮崎は富永のサイド、渡辺のポスト、寺留のPTと3連取、勝負を決めた。

石川 23 〔13—7 / 10—12〕 19 神奈川

〔戦評〕立ち上がり石川はロング、速攻、ポストなどで4点を先取。神奈川も福田の連続得点で4—2とするが、7分に神奈川・江成が退場すると、石川は吉田がセンターからのミドルシュートを決め、10分には6—2とリードを広げた。神奈川は石川のディフェンスを攻めあぐみ、シュートも石川GKに阻まれ、前半を13—7と石川の6点リードで折り返した。
　後半は神奈川のペースで試合は進んだが、スピードある攻撃を展開していた石川は前半の差を守り逃げ切った。

得	〔石川〕		〔神奈川〕	得
0	秋田	GK	井上	0
0	北	GK	上條	0
2	松本	FP	黒沢	1
7	吉田	FP	鈴木	4
2	古谷	FP	山田	2
1	伊吹	FP	吉岡	0
0	大壁	FP	遠藤	0
3	泉	FP	清水	0
0	瀬戸	FP	福田	2
0	堀戸	FP	大竹	6
5	吉田	FP	江成	3
3	福田	FP	高橋	1
23		〔審・後藤・島田〕		19

3位決定戦

埼玉 25 〔14—11 / 11—7〕 18 神奈川

〔戦評〕ボールが回らずスローな展開で互いに決め手がないまま埼玉は苦しい場面で堤のミドルで得点をあげていく。神奈川は上からのシュートがゴールを割ることができず、速攻、ポストプレーに活路を見出そうとするがいずれも単発に終わってしまう。埼玉は相手のシュートミスからGK菊地の堅実なパスで山口が2本連続速攻ループシュートを決めるなど徐々にゲームの主導権を握って前半を終了した。
　雨中での決戦となった後半、トップがきかないグラウンドで両チームとも足が止まり、ボールは手につかずミスが続出した。序盤、神奈川が速攻で追い上げたが、中盤以降、速攻、シュート力に勝る埼玉が25—18で神奈川を押し切った。

得	〔埼玉〕		〔神奈川〕	得
0	阿部	GK	井上	0
0	菊地	GK	上條	0
4	寿川	FP	黒沢	3
2	山口	FP	鈴木	4
2	野口	FP	山田	2
1	宮沢	FP	吉岡	0
1	古平	FP	遠藤	0
0	山田	FP	清水	0
5	井川	FP	福田	2
2	細津	FP	大竹	2
3	土屋	FP	江成	5
5	堤	FP	高橋	0
25		〔審・高田・田村〕		18

決勝

石川 22 〔11—9 / 11—9〕 18 宮崎

〔戦評〕宮崎の2連取で試合は始まったが、地元の大声援を受けた石川は吉田のポストや泉のカットインで波に乗った。宮崎は動きが固く、持ち味の足を使った力強い攻撃が出せず、両サイドから必死に攻撃するがなかなか点につながらない。終盤、宮崎はパスカットや石川のミスを渡辺、木切倉が速攻につなぎ猛烈な追い上げを見せ11—9と石川の2点リードで前半を終了した。
　後半、両チームとも得点に向けてのあせりからのミスが多く混戦となるが、中盤以降、GK秋田の好キープからリズムに乗った石川が得点を重ねて逃げ切った。

得	〔石川〕		〔宮崎〕	得
0	秋田	GK	和田	0
0	北	GK	北林	0
3	松本	FP	吉留	5
3	吉田	FP	百田	0
2	古谷	FP	温水	0
0	伊吹	FP	本石	0
0	大壁	FP	本部	1
6	泉	FP	押川	2
0	瀬戸	FP	渡邊	4
0	堀戸	FP	木切倉	6
7	吉田	FP	有田	0
1	福田	FP	富永	0
22		〔審・小笠原・江成〕		18

成年女子

1回戦

山口（徳山ク） 30 〔18—7 / 12—16〕 23 福井（福井選抜）

〔戦評〕立ち上がり固さがほぐれた5分過ぎから山口が次々と速攻をくり出し4—0とリードする。福井もフェイントからのカットイン、ポストプレーなどで得点するが決定力を欠き、また帰陣の遅さをつかれて山口の速攻を浴びる。山口は速攻からのカットイン、ポストプレー、ペナルティーなど次次と加点し、前半15分過ぎには11—6として試合の主導権を握る。
　後半は、大量リードでやや緊張感の薄れた山口の攻守の甘さをついて福井も健闘し、互角の戦いであっただけに、前半の帰陣の遅さが悔やまれる。

得	〔山口〕		〔福井〕	得
0	野村	GK	酒井	0
0	中嶋	GK	森	0
1	三崎	FP	大角	2
6	石田	FP	石田	3
8	中嶋	FP	朝賀	3
0	世良	FP	千秋	6
3	国沢	FP	牧野	2
5	石田	FP	倉自	0
0	加藤	FP	北村	7
0	武田	FP	畑	0
3	植田	FP	駒野	0
4	和田	FP	野村	0
30		〔審・小笠原・江成〕		23

香川（香銀ク） 39 〔20—4 / 19—5〕 9 北海道（ホッパーズ）

〔戦評〕出だし2—2まで一進一

退の攻防だったが、この後香川はよく走り、速攻からペースをつかんだ。その後も香川は堅いディフェンスとGK福井の好守で前半を20－4と大きくリードした。後半に入っても香川は攻撃の手をゆるめず、また北海道のオーバーステップもあり、39－8と快勝した。

〔北海道〕		得
GK	白戸	0
FP	佐々木	1
	長谷川	1
	相馬	1
	藤本	0
	佐藤	3
	和歌	0
	加藤	0
	武田	1
	佐藤	1
	藤田	1
		9

〔審・高田・田村〕

〔香川〕		得
GK	武田	0
	福井	0
FP	谷本	0
	笠井	8
	末佐	8
	河野	7
	橘	2
	多田	6
	宇野	1
	畠山	0
	松浦	6
	黒木	1
		39

2回戦

熊本（オムロン）43〔19－5 / 24－8〕13 山口

〔戦評〕山口が2点を先制するが熊本・比嘉が斉藤のアシストからのポストプレーや自らも速攻、ロングを決める活躍などで逆転するとその後は完全に熊本ペース。18分には前半終了までベテランをベンチに下げる余裕の展開となった。

後半は、山口もボールをよく回して打って出るのだが、シュートに威力がなく、ことごとくGKに阻まれ速攻を浴びた。

〔山口〕		得
GK	野村	0
	中嶋	0
FP	三崎	1
	石田	2
	中嶋	3
	世良	3
	国沢	1
	石田	1
	加藤	1
	武田	0
	植田	0
	和田	1
		13

〔審・森・沢井〕

〔熊本〕		得
GK	川島	0
	城下	0
FP	吉田	1
	西村	0
	中山	12
	武津	3
	吉田	5
	比嘉	10
	橋本	1
	斉藤	4
	田中	3
	石村	4
		43

三重（ジャスコ）23〔13－8 / 10－14〕22 大阪（大和銀行）

〔戦評〕前半は三重ペース。切れのよいフェイント、巧みなステップワーク、パスワークによるずらしのサイドシュートや速攻で着々と加点。守っても出足のよいディフェンスとGK小林の再三にわたる好キープで大阪は攻撃のリズムをつかめないまま13－8で前半を終了。

後半に入って大阪も本来のリズムを取り戻し一進一退の攻防が続いた。ところが20分、三重側に退場になっているはずの選手が出場しているというアクシデントが発生。20分の中断の後、試合の流れは大阪のものかと思われたが、ペナルティーを2本連続して落とすなど要所でミスを犯したのが明暗を分けた。

〔大阪〕		得
GK	上田	0
	岡田	0
FP	丸田	4
	小池	4
	袰川	0
	木口	0
	松田	2
	山尾	3
	瀬川	3
	高尾	3
	又吉	2
	西口	2
		22

〔審・浜野・阿部羅〕

〔三重〕		得
GK	小林	0
	長谷川	0
FP	今井	3
	東出	5
	勝島	2
	稲田	1
	山田	4
	川井	2
	飯田	1
	成澤	4
	土師	1
	松村	0
		23

石川（北国銀行）33〔20－9 / 13－11〕20 山形（べにばなク）

〔戦評〕開始直後、石川・谷本が得点、その後も順調に加点する。一方山形も新田、野嶋らのロング、高橋のポストシュートで点の取り合いとなる。20分過ぎより石川の速攻が決まり出し、山形の三嶋、本田らの退場もあり、前半終了前10分間に6連続得点で石川が差を広げた。

後半に入り山形も必死で食い下がり、一時10点差となったが、前半のリードで余裕のある石川は、さらに差を広げ試合終了となった。

〔山形〕		得
GK	後藤	0
FP	新田	7
	小高	0
	本田	1
	青木	0
	小原	1
	野嶋	3
	小池	2
	高橋	2
	三嶋	2
	藤田	2
		20

〔審・秋永・前川〕

〔石川〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	上田	1
	矢野	2
	西川	1
	松下	2
	坂井	1
	谷本	8
	森	6
	北川	1
	釣川	2
	松田	9
		33

山梨（シャトレーゼ）40〔21－6 / 19－5〕11 香川

〔戦評〕2－2で始まった試合も終ってみれば大差であった。山梨は頻繁にメンバーを入れ替えながらロング、サイド、ミドル、ポスト、カットインに速攻をからめ、多彩な攻撃から着々と加点してゆくのに対して香川は山梨の高いディフェンスを攻めあぐみ、速攻、カットインなどで散発的に得点するのみであった。山梨のセット攻撃が冴え、点差の割には速攻の少ないゲームであった。

〔香川〕		得
GK	武田	0
	福井	0
FP	谷本	0
	笠井	3
	末佐	1
	河野	3
	橘	2
	多田	0
	宇野	1
	畠山	0
	松浦	1
	黒木	0
		11

〔審・森・沢井〕

〔山梨〕		得
GK	村山	0
	工藤	0
FP	小林	5
	生方	4
	山岸	8
	松沢	7
	野沢	2
	小林	0
	小野寺	0
	鶴田	4
	合田	2
	小俣	8
		40

準決勝

熊本 30〔14－10 / 16－8〕18 三重

〔戦評〕序盤は熊本が先行しながらも1点を争う互角の展開であったが、三重はセットに決め手を欠いて12分頃から8分間沈黙。この間に熊本は2本のPTなどでリードを4点差に広げる。この後三重は全員攻撃で必死に追いすがるが24分過ぎにそれまで不発であった斉藤のロングが2本続けて決まるなど結局4点差のまま前半を終了。

後半は2分過ぎにエース東出が負傷退場した三重が必死の頑張りを見せるが、熊本は比嘉がPTを含めて4連続得点するなど差を縮めさせず、11分過ぎに甘くなった

三重のシュートを連続して速攻につなげ勝負を決めた。

〔三重〕		得
GK	小林	0
	長谷川	0
FP	今井	1
	東出	3
	勝島	2
	稲田	2
	山田	2
	川井	6
	飯田	0
	成澤	0
	土師	2
	松村	0
		18

審・田村 高田

〔熊本〕		得
GK	川島	0
	城下	0
FP	吉田	0
	西村	3
	中山	6
	武津	1
	古田	0
	比嘉	14
	橋本	0
	斉藤	3
	田中	0
	石村	3
		30

石川 31 〔11－11、12－12、3－1、5－1〕 25 山梨

〔戦評〕石川の森、谷本らの3連続得点で試合が始まった。一方山梨も小俣、小野寺らの得点ですぐに追いつく。その後、山梨の生方のロングなどで得点し3点差となる。流れが山梨に傾くかに思えたが、15分過ぎ山梨・松沢の警告によるペナルティーで森が得点、谷本の速攻などにより20分過ぎに同点となる。その後は両チーム必死の攻防で試合が進み、山梨が先行し石川が追いかける形になった。後半終了1分前、山梨・松沢がペナルティーを決めそのまま逃げ切るかに見えたが、石川・上田が終了20移前に得点しそのまま延長に入る。延長に入り、石川のくり出す速攻が次々と決まり石川が逃げ切った。

〔山梨〕		得
GK	村山	0
	工藤	0
FP	小松	2
	生方	3
	山岸	3
	松沢	9
	野沢	0
	小林	0
	小野寺	3
	鶴田	0
	合田	1
	小俣	4
		25

審・大原 北山

〔石川〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	上田	2
	矢野	3
	西川	0
	松下	5
	坂井	0
	谷本	11
	森	6
	北川	0
	釣川	0
	松田	4
		31

3位決定戦

山梨 24 〔13－12、11－5〕 17 三重

〔戦評〕序盤、東出のミドルで先制した三重は速攻で3点を先取するが、山梨もポストをからめた力ットインプレーで三重ディフェンスをゆさぶり、7分過ぎに同点に追いつく。その後スピードに勝る三重が山梨のミスをついて速攻をかけるのに対し山梨も山岸、松沢のカットインを中心に盛り返し、中盤以降は一進一退の展開で山梨1点のリードで前半を終わる。

後半開始早々、山梨は続いて2人の退場者を出すが、三重はこのチャンスに攻め切れず、逆に山梨・小俣の3連続シュートで差を広げられた。山梨はこれで波に乗り順調に得点を重ねていく。三重も速攻を中心に反撃するが、シュートミスが重なり、山梨GK村山の好守もあって最後まで流れを変えることができなかった。

〔三重〕		得
GK	小林	0
	長谷川	0
FP	今井	2
	東出	5
	勝島	3
	稲田	0
	山田	2
	川井	3
	飯田	2
	成澤	0
	土師	0
	松村	0
		17

審・田村 高田

〔山梨〕		得
GK	村山	0
	工藤	0
FP	小松	0
	生方	6
	山岸	6
	松沢	6
	野沢	0
	小林	0
	小野寺	0
	鶴田	0
	合田	0
	小俣	6
		24

決勝

熊本 22 〔9－10、13－9〕 19 石川

〔戦評〕地元の大声援を受け、固さの見られた石川に対し、熊本は斉藤のロングなどで4－1とリードする。ここで石川は谷本のロングなどで同点とし、GK木戸を中心に守りを固め、10－9で前半を折り返す。後半に入ると、熊本は比嘉のサイド、ロングの活躍で逆転するが、石川も矢野や森のシュートで頑張り、20分には16－16の同点となる。ここから熊本は比嘉、石村、武津のシュートで4連取し、そのまま逃げ切った。石川は再三のノーマークやPTを落としたのが命取りになってしまった試合だった。

〔石川〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	上田	0
	矢野	3
	西川	0
	松下	3
	坂井	0
	谷本	7
	森	3
	北川	1
	釣川	0
	松田	2
		19

審・松原 武智

〔熊本〕		得
GK	川島	0
	城下	0
FP	吉田	0
	西村	2
	中山	2
	武津	2
	古田	0
	比嘉	9
	橋本	0
	斉藤	4
	田中	0
	石村	3
		22

少年男子

1回戦

千葉（千葉選抜）20〔11－7 / 9－10〕17 熊本（オール熊本選抜）

〔戦評〕前半、熊本のセンター森山が1人で5得点を決めるが、千葉が相手ミスから速攻を決め、前半を11－7とリードして折り返した。後半、2点差まで追い上げた熊本がダブルスカイを決め波に乗るかと思われたが、決め手を欠き、ミスも目立ち、17－20で敗れた。

	〔熊本〕	得
GK	村上	0
GK	鎌田	0
FP	岩崎	3
FP	平井	2
FP	田中	3
FP	城戸	0
FP	野田	0
FP	水上	0
FP	馬場	0
FP	石橋	0
FP	森山	6
FP	米満	3
		17

〔審・幸塚 光安〕

	〔千葉〕	得
GK	百瀬	0
GK	杉山	0
FP	下西	5
FP	近藤	4
FP	猪野	1
FP	福田	2
FP	西谷	0
FP	安生	0
FP	奥山	3
FP	黒坂	0
FP	菅田	0
FP	毛利	5
		20

京都（京都高校選抜）24〔12－6 / 12－11〕17 北海道（北海道選抜）

〔戦評〕京都・横沢のロングシュートが快調に決まり、10分過ぎまでに5－2とリード。北海道も藤井のロング、GK松江の好守で追い上げたが、大事なところでのミスが目立ち、京都が前半を12－6とリードして終了。後半に入り、固さのとれた北海道も坂部の速攻、梅木のサイドシュートで懸命に追撃したが、前半の貯金を生かした京都が逃げ切った。

	〔北海道〕	得
GK	池田	0
GK	松江	0
FP	坂部	5
FP	菅原	1
FP	豊田	0
FP	土井	0
FP	梅木	4
FP	別当屋敷	0
FP	佐藤	0
FP	藤井	4
FP	渡辺	3
FP	祐川	0
		17

〔審・大宗 北山〕

	〔京都〕	得
GK	宮崎	0
GK	山田	0
FP	横沢	11
FP	高橋	2
FP	森下	1
FP	下村	2
FP	藤本	5
FP	中小路	2
FP	小林	0
FP	今井	1
FP	吉田	0
FP	五十棲	0
		24

香川（香川選抜）19〔10－9 / 9－5〕14 岩手（全岩手）

〔戦評〕立ち上がり両チームとも動き固く、香川・平田、岩手・佐藤らのシュートが決まりだす。前半終了間際、香川・平田がスカイを決め、香川1点のリードで折り返す。後半も互角の戦いが続いたが、残り10分、岩手の攻撃がやや単調になったところを香川はよく走り、速攻を中心に得点を重ね逃げ切った。

	〔岩手〕	得
GK	石川	0
GK	熊谷	0
FP	斉藤	2
FP	尾形	4
FP	小川	1
FP	千葉	0
FP	高橋	2
FP	佐々木	0
FP	村山	1
FP	柴内	0
FP	武元	0
FP	佐藤	4
		14

〔審・光安 幸塚〕

	〔香川〕	得
GK	相馬	0
GK	黒川	0
FP	深谷	0
FP	明石	0
FP	増本	2
FP	大山	3
FP	岡	0
FP	原田	0
FP	入谷	0
FP	藤沢	2
FP	平田	9
FP	西村	3
		19

石川（石川選抜）19〔7－5 / 12－5〕10 静岡（静岡選抜）

〔戦評〕立ち上がり石川は手渡しパスからのポストシュートや速攻などでいきなり3連続ゴールをもぎ取った。ところが、ここから静岡は出足のよいディフェンスで石川の攻撃をよく守り7－5で前半を終了した。

　後半の立ち上がり、いきなり静岡・酒井がリバウンドを拾って決め、静岡側に流れが傾きかけたのだが、それを断ち切ったのが石川・松田のロングとGK五谷の好守だった。そして9分過ぎ、いよいよ石川にエンジンがかかり始め、大壁、高らの速攻でペースをつかみ勝負を決めた。

	〔静岡〕	得
GK	橋本	0
GK	季高	0
FP	庄村	0
FP	藤井	0
FP	愛澤	0
FP	酒井	3
FP	海野	1
FP	藤良	0
FP	田代	3
FP	田代	2
FP	櫛引	1
FP	小永井	0
		10

〔審・大原 北山〕

	〔石川〕	得
GK	五谷	0
GK	生瀬	0
FP	大壁	3
FP	星野	1
FP	吉田	0
FP	佐伯	2
FP	笹浪	1
FP	南野	5
FP	大矢	1
FP	山形	0
FP	松田	2
FP	高	4
		19

埼玉（埼玉選抜）37〔20－5 / 17－12〕17 兵庫（兵庫選抜）

〔戦評〕立ち上がり、埼玉・斉藤のポスト、兵庫・森田の速攻で対抗した。しかし、埼玉は固いディフェンスから素早い攻撃を見せ、カットイン、ミドルシュートなど多彩な攻めで前半を20－5で折り返した。

　後半に入ってもリズムに乗った埼玉が、速攻、カットインと着実に加点、また堅いディフェンスとGK飯塚の好守などで兵庫の攻めを阻み大差をもって快勝した。

	〔兵庫〕	得
GK	小河	0
GK	福島	0
FP	北村	2
FP	上野	5
FP	田中	2
FP	高木	3
FP	森田	0
FP	小泉	3
FP	井町	0
FP	山本	0
FP	金正	1
FP	高橋	1
		17

〔審・浜野 阿部羅〕

	〔埼玉〕	得
GK	飯塚	0
GK	諸橋	0
FP	山口	11
FP	芹沢	12
FP	斉藤	3
FP	大高	4
FP	須藤	2
FP	佐藤	1
FP	高尾	1
FP	羽白	3
FP	山口	0
FP	小浜	0
		37

愛知（愛知選抜）24〔12－7 / 12－12〕19 富山（全富山）

〔戦評〕両チームともにカットインからの攻撃を軸にスタートから1点を争う好試合が展開されたが、個人技、速攻に勝る愛知が徐々に差を広げていった。富山も柿谷、白川のロングシュートで追いすがるが、愛知のGK兜丸、日原の好守に追加点を阻まれ、前半は12－7と愛知が優位に立った。

　後半に入ると、富山は速攻、白川のロングで10分過ぎには15－12と差を詰めるが、大事なところでGK日原の好守にあい、さらには直接日原にシュートを決められ追いつくチャンスを逃した。反対に愛知は林のサイド、中村のロング

などで着実に加点し、白川の個人技に頼る富山をふり切った。

〔富山〕

	得	氏名
GK	0	中島
GK	0	山田
FP	0	久保
FP	2	柿谷
FP	2	龍根
FP	1	広瀬
FP	9	白川
FP	1	西田
FP	2	河原
FP	1	安川
FP	1	和田
FP	0	野村
	19	

〔愛知〕

	得	氏名
GK	1	日原
GK	0	兒丸
FP	4	中村
FP	6	相木
FP	0	水野
FP	0	村田
FP	4	後藤
FP	1	林
FP	0	西村
FP	3	掛川
FP	1	山北
FP	4	佐久間
	24	

〔審・内藤 佐塚〕

神奈川（全神奈川）22 〔11−10 / 11−11〕 21 沖縄（沖縄選抜）

〔戦評〕前半立ち上がり、沖縄の速攻でたて続けに決まり、3分過ぎまでに3点を連取する。神奈川も沖縄の堅守に苦しみながらもロング、フェイントからのスピードあるカットイン攻撃で応酬。前半中盤から吉田が4連続得点をあげ遂に残り5分で同点、そして逆転と前半は神奈川の1点リードで終わる。

後半に入り激しい攻防が続き、お互い連続得点をあげペースをつかみかけるが、二転、三転の試合展開となる。しかし沖縄は前半から神奈川のフェイント力に苦しみ退場者が続出、10分過ぎには城間が失格となり、徐々に神奈川ペースになる。しかし、残り3分を切って沖縄も猛然と反撃、1点差まで追いつめるがタイムアップ。

〔沖縄〕

	得	氏名
GK	0	伊礼
GK	0	大城
FP	2	仲村
FP	2	城間
FP	0	棚原
FP	4	田場
FP	5	名嘉
FP	0	棚原
FP	0	賀数
FP	1	宮城
FP	5	外間
FP	2	宮里
	21	

〔神奈川〕

	得	氏名
GK	0	石川
GK	0	広川
FP	2	竹野
FP	0	福原
FP	6	千葉
FP	1	石井
FP	0	林
FP	8	吉田
FP	2	関根
FP	0	籾山
FP	3	阿部
FP	0	松山
	22	

〔審・波野 阿部羅〕

山口（山口選抜）28 〔12−8 / 16−6〕 14 福島（福島選抜）

〔戦評〕山口がセンタースリーで攻撃するがうまくパスがつながらず、逆に福島に速攻による得点を許してしまう。福島GKの好守もあり斉藤、大河内とたて続けに加点し、このまま福島が波に乗るかと思われたが、山口の広政、木村のロングシュートが次々と決まり山口優位のうちに前半を終了。

後半、福島は小幡を投入、センタースリーでゴールを狙うが、決め手に欠け、逆に山口の速攻が次次と決まり福島は手のうちようがなかった。後半終了近く、福島は3連続得点し、必死に食い下がるが、そのままタイムアップ。

〔福島〕

	得	氏名
GK	0	荒川
GK	0	岡田
FP	1	本郷
FP	2	斎須
FP	3	藤田
FP	2	大河内
FP	2	辻
FP	2	矢吹
FP	1	小幡
FP	0	和知
FP	0	佐久間
FP	1	関
	14	

〔山口〕

	得	氏名
GK	0	荻原
GK	0	五島
FP	8	広政
FP	3	岡田
FP	4	坂根
FP	0	宮本
FP	0	元久
FP	0	原田
FP	1	保科
FP	6	蔦本
FP	2	西村
FP	4	木村
	28	

〔審・佐塚 内藤〕

2回戦

千葉 20 〔10−7 / 10−8〕 15 京都

〔戦評〕前半、千葉は下西のロングを中心に6点連取し、一気にゲームの主導権を握った。それに対し京都は12分30秒PTで初得点を得てからリズムをつかみ、横沢のロングで猛追し3点差まで差を縮め前半を終了。後半に入ってからは一進一退の全くの五分の試合展開。両チームともサイド、ミドルと多彩な攻撃で互いに譲らなかったが、大事なところでミスが目立った京都が追い切れずに終った。

〔京都〕

	得	氏名
GK	0	宮崎
GK	0	山田
FP	7	横沢
FP	2	高橋
FP	0	森下
FP	2	下村
FP	0	藤本
FP	1	中小路
FP	1	小林
FP	2	今井
FP	0	吉田
FP	0	五十棲
	15	

〔千葉〕

	得	氏名
GK	0	百瀬
GK	0	杉山
FP	6	下西
FP	5	近藤
FP	1	猪野
FP	5	福田
FP	1	西谷
FP	0	安生
FP	1	奥山
FP	0	黒坂
FP	1	菅田
FP	0	毛利
	20	

〔審・中村 佐野〕

石川 23 〔10−9 / 13−8〕 17 香川

〔戦評〕両者ともにいい立ち上がりを見せたが、6分過ぎから石川・五谷、香川・相馬両GKの再三にわたる好守により緊迫した試合展開となった。この状況の中でともにあせりからかチャージプレーが随所に見られた。前半は終了間際に南野がPTを決め、10−9と石川がリードした。後半に入り、石川、香川ともに得点連取が続き、互いにペースに乗り切れないでいたが、12分過ぎから石川・笹波のロングや松田のロングなどで徐々に得点差を広げていった石川が23−17で勝利をものにした。

〔香川〕

	得	氏名
GK	0	相馬
GK	0	黒川
FP	0	深谷
FP	0	明石
FP	4	増本
FP	4	大山
FP	1	岡
FP	0	原田
FP	0	入谷
FP	1	藤沢
FP	6	平田
FP	1	西村
	17	

〔石川〕

	得	氏名
GK	0	五谷
GK	0	生瀬谷
FP	1	大壁
FP	2	星野
FP	2	吉田
FP	0	佐伯
FP	5	笹浪
FP	5	南野
FP	3	大矢
FP	0	山形
FP	4	松田
FP	1	高
	23	

〔審・江成 小笠原〕

愛知 22 〔11−6 / 11−6〕 12 埼玉

〔戦評〕埼玉の相手ディフェンスのスキをつく攻撃でスタートを切ったが、持ち直した愛知ディフェンスの高い位置でのロールのつぶしにより埼玉はボールを止められ、さらにミスが続き苦しい展開とな

〔埼玉〕

	得	氏名
GK	0	飯塚
GK	0	諸橋
FP	3	山口
FP	3	芹沢
FP	1	斉藤
FP	0	大高
FP	3	須藤
FP	1	斉藤
FP	0	高尾
FP	1	羽白
FP	0	山口
FP	0	小浜
	12	

〔愛知〕

	得	氏名
GK	0	日原
GK	0	兒丸
FP	1	中村
FP	4	相木
FP	1	水野
FP	1	村田
FP	1	後藤
FP	2	林
FP	0	西村
FP	1	掛川
FP	1	山北
FP	10	佐久間
	22	

〔審・佐野 中村〕

った。一方愛知は、佐久間のポストや相木のブラインドシュートで確実にその点差を広げていった。

後半に入っても愛知は立ち上がりの5連続得点などでさらにリードを広げていき、22−12で埼玉を押し切った。

山口 26 〔13−10 13−9〕 19 神奈川

〔戦評〕山口は立ち上がり神奈川のスキをついて3点を先取。神奈川はパスを回し、サイド、カットインへとつなげたいところだが、山口の速いディフェンスでシュートにつなげられず、10分には2−6と差を広げられた。しかし13分、20分と山口に退場者が出たところを神奈川・吉田のミドルなどが決まり、前半を13−10と山口リードで折り返した。

後半、サイド、ミドル、ロングと多彩な攻めで得点を積み重ねる山口に対し、神奈川は千葉の切り込みから吉田へつなぐパターンばかりが多くなり、結局点差を縮めることができなかった。

〔神奈川〕		得
GK	石川	0
GK	広川	0
FP	竹野	1
FP	福原	0
FP	千葉	5
FP	石井	0
FP	林	0
FP	吉田	7
FP	関根	4
FP	籾山	0
FP	阿部	2
FP	松山	0
		19

〔山口〕		得
GK	荻原	0
GK	五島	0
FP	広政	7
FP	岡田	4
FP	板根	5
FP	宮本	0
FP	元久	2
FP	原田	0
FP	保科	2
FP	嶌本	4
FP	西村	0
FP	木村	2
		26

〔審・大原・北山〕

準決勝

石川 16 〔8−6 3−5 3−0 2−2〕 13 千葉

〔戦評〕石川は立ち上がり大矢、松田らのロングシュートで3−0とするが、千葉も近藤のカットインでペースをつかみ10分に3−3と追いついた。その後石川・高、千葉・下西らのシュートで一進一退の好ゲームとなったが、残り20秒から石川・星野らのシュートで8−6と石川の2点リードで折り返した。

後半に入り石川のミスが目立ち6分、千葉・近藤らのシュートで9−9の同点とした。その後、両チームともPTを外すなどことごとくシュートがGKに阻まれ波に乗り切れずラスト3分から千葉・奥山、石川・松田のシュートが決まりそのまま11−11で延長となった。延長に入り、立ち上がり波に乗ってきた石川は笹波らのシュートで3連続得点し前半を14−11とし、後半に入っても石川はリズムを崩さず16−13と逃げ切った。

〔千葉〕		得
GK	百瀬	0
GK	杉山	0
FP	下西	5
FP	近藤	3
FP	猪野	0
FP	福田	3
FP	西谷	0
FP	安生	0
FP	奥山	1
FP	黒坂	0
FP	菅田	1
FP	毛利	0
		13

〔石川〕		得
GK	五谷	0
GK	生瀬谷	0
FP	大壁	0
FP	星野	1
FP	吉田	0
FP	佐伯	0
FP	笹波	1
FP	南野	1
FP	大矢	4
FP	山形	2
FP	松田	4
FP	高	3
		16

〔審・島田・後藤〕

山口 21 〔10−6 11−6〕 12 愛知

〔戦評〕愛知のペナルティーで動き出した試合も山口がフローターのプレッシャーからサイド、ポストへと健闘し、速攻も織り混ぜ5点連取で主導権を握った。その後は攻撃が慎重になり愛知がじりじり追い上げ、1点差まで迫るも残り5分、再度山口が攻勢に出て10−6で前半を終了。

後半に入っても山口のペースは衰えず、岡田のパワフルなポストシュートなどで着実に得点を重ね一度も主導権を譲ることなく試合を進めた。愛知も早い動きからチャンスをうかがうも山口の堅い守りを崩すまでには至らなかった。

〔愛知〕		得
GK	日原	0
GK	兒丸	0
FP	中村	3
FP	相木	3
FP	水野	1
FP	村田	0
FP	後藤	1
FP	林	1
FP	西村	0
FP	掛川	1
FP	山北	1
FP	佐久間	1
		12

〔山口〕		得
GK	荻原	0
GK	五島	0
FP	広政	4
FP	岡田	6
FP	坂根	3
FP	宮本	0
FP	元久	2
FP	原田	0
FP	保科	2
FP	嶌本	3
FP	西村	0
FP	木村	1
		21

〔審・江成・小笠原〕

3位決定戦

愛知 26 〔12−11 14−6〕 17 千葉

〔戦評〕千葉は愛知・中村にミドル、カットインを自在に決められさらに愛知ディフェンスの早いつぶしの前に攻撃も単調になり、苦しい状態が続いた。しかし、下西、近藤が気迫のシュートをみせ、さらに速攻でペースをつかんだかと思われたが、愛知は後藤のサイドで点差をつめ、その後は徐々に巻き返して前半を終了した。

後半に入り、愛知はGK日原の好守からの速攻で押しまくり、また千葉のポストへのパスも通させず、さらには20分過ぎの千葉のパワープレーの間にも佐久間のシュートで加点し快勝した。

〔千葉〕		得
GK	百瀬	0
GK	杉山	0
FP	下西	8
FP	近藤	4
FP	猪野	1
FP	福田	1
FP	西谷	0
FP	安生	0
FP	奥山	2
FP	黒坂	0
FP	菅田	1
FP	毛利	0
		17

〔愛知〕		得
GK	日原	0
GK	兒丸	0
FP	中村	8
FP	相木	2
FP	水野	0
FP	村田	1
FP	後藤	4
FP	林	4
FP	西村	0
FP	掛川	2
FP	山北	0
FP	佐久間	5
		26

〔審・佐東・星川〕

決勝

山口 25 〔11−8 14−7〕 15 石川

〔戦評〕立ち上がり山口・広政のロングシュートを中心に坂根のサイドシュートなど多彩な攻めを見せ、19分まで9−5と着実に加点していったが、20分、山口・広政、保科の連続退場の間に石川・南野、松田らのシュートが決まり、1点差まで追いつく。しかし、残り3

分、山口が2連続得点をして前半を11－8で折り返した。
後半に入り、リズムに乗る山口は攻撃の手を休めず、12分までに18－10とした。その後、石川も大矢、松田らのシュートで追い上げるが、地力に勝る山口が木村のロング、岡田の速攻などで着実に得点を重ね、25－15と山口が頂上へ上がった。

〔石川〕	得
GK 五谷	0
GK 生瀬谷	0
FP 大壁	1
FP 星野	2
FP 吉田	0
FP 佐伯	0
FP 笹浪	1
FP 南野	4
FP 大矢	1
FP 山形	1
FP 松田	4
FP 高	1
	15

〔山口〕	得
GK 荻原	0
GK 五島	0
FP 広政	5
FP 岡田	4
FP 坂根	4
FP 宮本	0
FP 元久	1
FP 原田	0
FP 保科	4
FP 嶌本	2
FP 西村	1
FP 木村	4
	25

審・光成、小笠原

少年女子

1回戦

大阪（大阪選抜）35〔18－3／17－3〕**6 香川（香川選抜）**

〔戦評〕大阪は速攻、ロング、ポスト、カットインで着実に加点。一方香川はポスト中心に攻めを展開するが、大阪の厳しいディフェンスチェックにより攻撃の糸口が見つけられず、前半は18－3で終った。スピードのある大阪は後半も速攻でリズムをつくり、GK友貞のボールに対する反応もよく、香川に簡単に得点を許さなかった。攻守ともに勝る大阪が自分たちのペースで進め、試合を決めた。

〔香川〕	得
GK 多田	0
GK 佐藤	0
FP 山下	1
FP 十河	1
FP 溝渕	1
FP 態野	1
FP 久保	0
FP 三谷	0
FP 清梅	0
FP 壺井	0
FP 一村	0
FP 橋谷	2
	6

〔大阪〕	得
GK 進藤	0
GK 友貞	0
FP 稲次	9
FP 野村	4
FP 荒川	4
FP 関	8
FP 小野	0
FP 中里	7
FP 大舘	2
FP 入江	1
FP 加藤	0
FP 菅澤	0
	35

審・秋永、前川

群馬（群女短大付）21〔12－8／9－10〕**18 宮城（聖和学園）**

〔戦評〕立ち上がり、お互いにパスミス、シュートミスなどが目立ち一進一退の展開であったが、10分過ぎから群馬が堅いディフェンスから神津のカットインなどで確実に宮城を引き離しにかかり、12－8と群馬をリードで前半を終了した。
後半に入っても群馬は宮城ディフェンスを左右に大きくゆさぶり破っていったが、11分、群馬・神津の退場を機に宮城攻撃陣が頑張りを見せ始め、点の取り合いになっていったが、やはり前半の失点が惜しかった。

〔宮城〕	得
GK 今内	0
GK 高橋	0
FP 沼倉	2
FP 石垣	6
FP 佐藤	0
FP 佐藤	2
FP 宍戸	0
FP 村上	3
FP 千代窪	3
FP 結城	2
FP 菱沼	0
FP 高橋	0
	18

〔群馬〕	得
GK 千葉	0
GK 川島	0
FP 肥留川	0
FP 井上	0
FP 永田	9
FP 神津	4
FP 小池	2
FP 坂田	1
FP 大谷	2
FP 寺田	[illegible]
FP 岡野	0
FP 神谷	3
	21

審・森井、沢

石川（石川選抜）33〔16－4／17－6〕**10 北海道（北海道選抜）**

〔戦評〕試合開始直後、北海道は山下のロングで先制したが、その後は石川の堅いディフェンスに阻まれ、中村のロングに活路を見出そうとするが、石川にシャットアウトされ、石川は逆に怒とうの速攻につなげ、前半を16－4と大きくリードした。
後半に入っても北海道は山下のロングなどで反撃を試みるが、どれも単発で逆に石川は宮崎のロング、後藤の速攻などで着実に得点を重ね快勝した。

〔北海道〕	得
GK 田中	0
GK 福本	0
FP 井潤	0
FP 中村	2
FP 米田	1
FP 池内	0
FP 佐藤	0
FP 山下	4
FP 安田	1
FP 尾形	1
FP 村上	0
FP 松宮	1
	10

〔石川〕	得
GK 鏡森	0
GK 宮本	0
FP 上出	0
FP 後藤	6
FP 宮本	6
FP 山崎	2
FP 宮崎	5
FP 東野	1
FP 北崎	2
FP 大野	10
FP 小野田	0
FP 田中	1
	33

審・前川、秋永

宮崎（本庄高）20〔5－5／15－5〕**10 静岡（静岡城北）**

〔戦評〕両チームとも立ち上がりから堅さが目立ち、8分間0点であった。その後もお互いのディフェンスを攻めあぐね、シュートミスも重なり得点が伸びず、5－5の同点で前半を終了した。後半立ち上がり、退場によって1人欠く宮崎が1点を取った後、波に乗り静岡のポストへのパスカットを中心に次々に速攻をかけ8分間で5連取した。緊張のとぎれた静岡は攻めが単調になり、ミスも重なったため、後半は宮崎の一方的なゲームであった。

〔静岡〕	得
GK 瀧下	0
GK 近藤	0
FP 新井	4
FP 海野	3
FP 加納	0
FP 萱津	1
FP 岩石	0
FP 青山	0
FP 川崎	0
FP 鈴木	0
FP 長島	2
FP 大畑	0
	10

〔宮崎〕	得
GK 坂田	0
GK 黒木	0
FP 出口	0
FP 黒木	3
FP 畠中	0
FP 大生	0
FP 染矢	5
FP 佐藤	2
FP 廣瀬	4
FP 赤木	2
FP 川崎	1
FP 廣瀬	3
	20

審・森井、沢

福島（福島選抜）14〔9－7／5－6〕**13 大分（大分選抜）**

〔戦評〕大分はポストを中心に攻撃を展開するが、福島の粘り強いディフェンスで思うようにパスが通らないところを甲斐のロングなどがコースよく決まり、立ち上がりを4－2とリード。一方、福島は速いパスワークとポストプレー、速攻を展開するが、決定力に欠け、思うように得点が伸びず苦しんだが、エース今野のロングが決まり出し前半を[illegible]－7とリード。

後半は速攻の応酬となったが、大分・吉永のシュートが確実に決まり、15分に逆転してからは吉永が今野を徹底マークして優位に立ったが、20分過ぎから大分にミスが目立ち、そこを福島・高田の速攻、今野のロングで再逆転し、大分の最後の反撃を1点差で逃げ切った。

	〔大分〕	得	得	〔福島〕
GK	大本	0	0	安田
GK	遠竹	0	0	安藤
FP	吉永	3	2	斉藤
FP	湯浅	0	3	今野
FP	実川	2	1	横田
FP	竹田	0	3	千葉
FP	小野	1	3	高田
FP	松本	2	1	伊東
FP	甲斐	5	0	志賀
FP	中村	0	0	山本
FP	永野	0	1	鈴木
FP	渡辺	0	0	山谷
		13	14	

審・中村 佐野

千葉（千葉選抜）12 〔4－4 8－6〕 10 福井（福井商）

〔戦評〕両チームとも早いテンポのパス回しで始まった。福井・長谷川のサイドシュート、千葉・星のカットインで1分過ぎ1－1の同点。千葉はその後足を使った攻撃をしかけるが、福井GK村上の好守もあり、得点につながらなかった。14分過ぎ、千葉・島本のサイドシュートを機に得点が動き始め4－4で前半を終了した。

後半、福井はセット攻撃、千葉は速攻を中心に点を取り合い、15分には9－9と同点。その後、千葉が嶋本のシュートなどで抜け出し、12－10で勝利を握った。

	〔福井〕	得	得	〔千葉〕
GK	村上	0	0	佐藤
GK	沖園	0	0	富田
FP	山崎	0	4	嶋本
FP	町崎	0	1	阿部
FP	斉藤	4	1	増田
FP	出口	1	6	星
FP	宮本	1	0	古山
FP	小林	1	0	小鷲
FP	長谷川	3	0	大野
FP	森	0	0	細井
FP	山崎	0	0	梅沢
FP	宇野	0	0	坂口
		10	12	

審・佐東 星川

愛知（愛知選抜）23 〔13－11 10－7〕 18 広島（山陽女）

〔戦評〕広島ペースで立ち上がり、王野のロングシュートなどで3－0とリードしたが、愛知は梶田が続けてシュートを決め反撃に入った。愛知はその後も確実にシュートチャンスをものにし、粘る広島をかわしながら前半は2点のリードを保った。

後半は愛知の山川が積極的に攻撃に出て得点を重ねる一方、広島は攻撃が消極的になってシュートチャンスがつくれなくなり、愛知に速攻を連続して決められ、さらに点差を広げる結果となった。

	〔広島〕	得	得	〔愛知〕
GK	鷲見	0	0	山奥
GK	山城	0	0	庵下
FP	王野	5	2	川口
FP	村実	6	2	新地
FP	曽我	0	2	加藤
FP	田中	4	0	前原
FP	岩槻	2	0	水野
FP	玉木	1	0	加藤
FP	飯田	0	0	岩川
FP	山根	0	10	梶田
FP	青戸	0	7	山川
FP	三宅	0	0	安田
		18	23	

審・中村 佐野

兵庫（夙川学院）18 〔9－5 9－9〕 14 茨城（茨城選抜）

〔戦評〕芦ヶ谷、小谷内に左の高橋を加えた茨城のフローター陣に対し兵庫はGK中井を中心に守りをしっかりと堅め、攻めては大井、市岡のロング陣が活躍を見せ、9－5と前半を4点のリードを奪って折り返した。

後半、茨城は若林、日野の速攻などで必死に追い上げるが、兵庫も財田の速攻などで確実に得点を重ね、前半での貯金を守って兵庫が逃げ切った。

	〔茨城〕	得	得	〔兵庫〕
GK	鈴木	0	0	伊吹
GK	軽部	0	0	中井
FP	高橋	4	0	藤原
FP	芦ヶ谷	3	7	大井
FP	小谷内	2	0	小山
FP	鈴木	1	4	財田
FP	若林	1	1	碇
FP	染谷	2	1	中尾
FP	日高	1	0	松本
FP	野口	0	0	柏木
FP	大村	0	4	市岡
FP	小貫	0	1	小杉
		14	18	

審・小林 小山

2回戦

大阪 22 〔12－6 10－7〕 13 群馬

〔戦評〕大阪・関のミドル、群馬・永田らの得点で前半9分過ぎまで4－4と互角であったが、大阪は中島らの活躍で速攻、サイドと確実に得点を重ね、前半を12－6とリードした。

後半に入り、群馬は2点を連取し4点差まで詰め寄るが、またすぐに6点差とされてしまう。その後も群馬は神津のロング、長身ポストマン坂田らがゴールを狙うが得点にならず、20分には11点差と大きく離されてしまった。残り5分、神津のロングなどで3点返したがそこまでだった。

	〔群馬〕	得	得	〔大阪〕
GK	千葉	0	0	進藤
GK	川島	0	0	友貞
FP	肥留川	0	5	稲次
FP	井上	0	0	野村
FP	永田	3	5	荒川
FP	神津	3	6	関
FP	小池	2	0	小野
FP	坂田	4	3	中星
FP	大谷	1	3	大舘
FP	寺田	0	0	入江
FP	岡野	0	0	菅澤
FP	神野	0		
		13	22	

審・小林 小山

石川 20 〔10－4 10－4〕 8 宮崎

〔戦評〕宮崎は広瀬のロングで先行したが、出だしは両チームとも動きが固くミスが目立った。7分過ぎ石川・宮崎のPTを契機にゲームは動き出した。石川は左腕・田中のロング、宮本の速攻などで

	〔宮崎〕	得	得	〔石川〕
GK	坂田	0	0	鏡森
GK	黒木	0	0	宮本
FP	出口	0	3	上出
FP	黒木	0	0	後藤
FP	畠中	0	3	宮本
FP	大生	0	1	山崎
FP	染矢	1	5	宮崎
FP	佐藤	1	1	東野
FP	廣瀬	4	0	北崎
FP	赤木	1	4	大野
FP	川崎	0	0	小野田
FP	廣瀬	1	3	田中
		8	20	

審・北山 大原

得点を重ねた。一方、宮崎はシュートミスが目立ち、10－4と石川のリードで前半を終えた。後半は10分過ぎまで一進一退の攻防が続いたが、石川・宮崎のロングを契機に石川が得点を重ねた。宮崎は10分過ぎからは石川の堅いディフェンスに追加点が取れなかった。

福島 10 〔8－4／2－5〕 9 千葉

〔戦評〕福島は相手のミスを速攻につなげ、相手の反則によりPTで先取点。その後も福島はポスト、機田のロング、今野の高い打点からのシュートなどで得点する。一方、千葉は福島のディフェンス・ラインを意識し、ポスト、サイドと攻めを展開、島本のセンターからのカットインなどで前半を8－4で折り返した。

後半、千葉がペースをつかみ、後半18分、福島・斉藤の退場後すかさず同点に追いついた。ラスト5分、苦しい中で福島・横田のステップが決まり、最後までそのリードを保ち、福島が勝利した。

〔千葉〕		得
GK	佐藤	0
GK	富田	0
FP	嶋本	4
FP	阿部	1
FP	増田	0
FP	星	0
FP	古山	0
FP	小鷲	0
FP	大野	0
FP	細井	4
FP	梅沢	0
FP	坂口	0
		9

審・小山 小林

〔福島〕		得
GK	安田	0
GK	安藤	0
FP	斉藤	1
FP	今野	2
FP	横田	4
FP	千葉	2
FP	高田	0
FP	伊東	1
FP	志賀	0
FP	山本	0
FP	鈴木	0
FP	山谷	0
		10

愛知 16 〔6－6／10－6〕 12 兵庫

〔戦評〕前半、両チームともミスが多く波に乗り切れずどちらも抜け出せないまま6－6のタイスコアで折り返しに入った。

後半に入り、愛知は梶田、川口のミドルなどで3点連取し主導権を握ったかに見えたが、兵庫も市岡のミドルで12分には再び同点。その後、愛知は安田のポストシュート、山川のロングが冴え始め、一気に抜け出した。兵庫はずらし手渡しと見事なプレーも見せたが追いつけなかった。

〔兵庫〕		得
GK	伊吹	0
GK	中井	0
FP	藤原	0
FP	大井	5
FP	小山	0
FP	財田	3
FP	碇	2
FP	中尾	1
FP	松本	0
FP	柏木	0
FP	市岡	1
FP	小杉	0
		12

審・江成 小笠原

〔愛知〕		得
GK	山奥	0
GK	庵下	0
FP	川口	1
FP	新地	0
FP	加藤	0
FP	前原	0
FP	水野	0
FP	加藤	0
FP	岩川	0
FP	梶田	5
FP	山川	6
FP	安田	4
		16

準決勝

大阪 20 〔13－3／7－6〕 9 石川

〔戦評〕大阪は立ち上がり関のロングで先制したのを皮切りに大舘の速攻、野村のポストなどで得点を重ね、大阪ペースで進んだ。一方、石川は宮崎、田中のロングを中心に反撃を試みるが、大阪の出足の速いディフェンス陣につかまり、またシュートミスも目立ち、点差は開く一方であった。

後半は両チームとも出足が固く10分まで1－1の状態であったが、その後はよく動き、大阪のカットイン、ロングに対して石川は宮崎の速攻などで反撃した。

〔石川〕		得
GK	鏡森	0
GK	宮本	0
FP	上出	1
FP	後藤	1
FP	宮本	0
FP	山崎	0
FP	宮崎	2
FP	東野	0
FP	北崎	0
FP	大野	2
FP	小野田	0
FP	田中	3
		9

審・江成 小笠原

〔大阪〕		得
GK	進藤	0
GK	友貞	0
FP	稲次	4
FP	野村	4
FP	荒川	4
FP	関	2
FP	小野	0
FP	中里	3
FP	大舘	3
FP	入江	0
FP	加藤	0
FP	菅澤	0
		20

愛知 19 〔10－9／9－9〕 18 福島

〔戦評〕序盤、愛知フローター陣が福島ディフェンス陣をゆさぶり山川のミドルや安田の切れ味鋭いポストプレーで得点を重ねていった。中盤以降は福島が愛知攻撃陣のミスにつけこみ、高田の速攻やフォーメーションプレーで追い上げ、10－9と愛知リードで前半を折り返した。後半、福島は確実なパス回しから得点を重ねやや優位に試合を進めたが、中盤以降は1点をめぐり愛知が逃げ福島が追いつくという緊迫した展開であった。

結局22分、愛知は梶田のカットインでリードし、その時、福島のエース今野が退場となり万事休す。

〔福島〕		得
GK	安田	0
GK	安藤	0
FP	斉藤	1
FP	今野	7
FP	横田	2
FP	千葉	5
FP	高田	2
FP	伊東	1
FP	志賀	0
FP	山本	0
FP	鈴木	0
FP	山谷	0
		18

審・中村 佐野

〔愛知〕		得
GK	山奥	0
GK	庵下	0
FP	川口	2
FP	新地	0
FP	加藤	0
FP	前原	0
FP	水野	0
FP	加藤	0
FP	岩川	0
FP	梶田	7
FP	山川	5
FP	安田	5
		19

3位決定戦

石川 16 〔9－8／7－7〕 15 福島

〔戦評〕石川は大野のサイド、速攻で連取し、その後も堅さの見える福島のミスを得点に結びつけ、8分過ぎまでに5－1としたが、中盤以降、福島ディフェンスを攻めあぐねて得点は伸びなかった。福島は中盤以降エース今野のフリースローやロングを中心に盛り返し1点差に詰め寄った。

後半に入り、両チームとも1点を取られれば取り返す好ゲームとなった。

福島はポストへの手渡しパスを多用し、それに両フローターがからむ展開から追いすがったが、石川GK鏡森の好キープに合い最後まで追い切れなかった。

〔福島〕		得
GK	安田	0
GK	安藤	0
FP	斉藤	1
FP	今野	7
FP	横田	3
FP	千葉	0
FP	高田	2
FP	伊東	2
FP	志賀	0
FP	山本	0
FP	鈴木	0
FP	山谷	0
		15

審・大原 北山

〔石川〕		得
GK	鏡森	0
GK	宮本	0
FP	上出	1
FP	後藤	2
FP	宮本	1
FP	山崎	0
FP	宮崎	7
FP	東野	1
FP	北崎	0
FP	大野	4
FP	小野田	0
FP	田中	0
		16

決勝

愛知 21 〔12－6／9－9〕 15 大阪

〔戦評〕開始5分までは両チームとも固さが目立ち、簡単なミスが目立った。しかしここから10分間、大阪は両フローターのシュートがなかなか決まらず2得点をあげたのに対し、愛知は梶田、山川のロングに安田のポストをからませ7点を奪取して5点差とする。

後半に入っても愛知は川口、梶田、山川のフローター陣に安田、加藤の速攻などで着実に加点し、残り10分には20－8と点差が開いた。ようやく大阪もロング、速攻が出て反撃をしたが時すでに遅かった。

〔大阪〕		得
GK	進藤	0
GK	友貞	0
FP	稲次	5
FP	野村	3
FP	荒川	4
FP	関	1
FP	小野	0
FP	中里	2
FP	大舘	0
FP	入江	0
FP	加藤	0
FP	菅澤	0
		15

審・浜野 阿部羅

〔愛知〕		得
GK	山奥	0
GK	庵下	0
FP	川口	3
FP	新地	0
FP	加藤	2
FP	前原	0
FP	水野	0
FP	加藤	0
FP	岩川	0
FP	梶田	5
FP	山川	6
FP	安田	5
		21

アジア選手権大会を顧みて

十分な成果をあげて終幕

広島県実行委員会委員長　山下　泉

男子第6回・女子第3回のアジアハンドボール選手権大会が、8月22日から9月1日まで、13の国と地域から18チーム（男子13、女子5）が参加し、広島サンプラザと東区スポーツセンターで開催された。

野球やサッカーなどとは違い、比較的地味なスポーツと見られがちだが、今回の大会は、バルセロナ・オリンピックの出場権を賭け、しかも3年後に迫った広島アジア競技大会の事実上のリハーサル競技としても関係者の関心を集めたようだ。

選手、役員および関係者合わせて500人の参加である。東京オリンピックは例外としても、これほどの参加人員と期間を要した国際競技大会の開催は我が国でも初めてのこと。しかも地方都市広島で果たしてできるのだろうか、昨年春実行委員長を仰せつかって以来、正直なところ大層心配が続いたものだ。大会開催の予算を試算してみても最低2億円は必要であり、果たしてこれだけの資金がハンドボールで集めることができるかどうか。赤字は出せないし、責任の重大さを痛感させられることになった。

ＡＨＦ（アジアハンドボール連盟）の大会開催要項によると、参加選手たちの交通費は国際空港到着までは参加国の負担とし、以後開催地広島までの交通費は主催者側の負担となっている。ちょうど広島−ソウル便が3年6月に実現したこともあり、原則として広島空港、もしくは大阪、福岡空港の使用を指定し、空港からはすべてバスで広島まで輸送することでまず予算を切り詰めることとした。

新幹線は盆明けで切符の手配が難しいうえに費用がかさむ。ホテル費用は規則によると一人当たり3食付き1泊5000円まで。実際には1万5000円が必要なため、総勢500人で毎日500万円の補てん、大会前後を合わせて15日分、合計7500万円が宿泊費で消える計算だ。〈ウエルカム〉〈サヨナラ〉など、会期中五つのパーティも催した。

資金の大部分は広告費として集めなければならない。会場内のボードや新聞、ポスターなどすべて電通の協力で企画した。日本ハンドボールリーグに参加している実業団の企業先にまずお願いするのがベターと判断し、会長会社である大崎電気の渡辺社長、副会長の湧永製薬の湧永社長にとりわけご尽力、ご協力をいただいたのをはじめ、多くの地元企業からさまざまな形で資金支援をいただいたことに、誌面を借りて改めて厚くお礼を申し上げたい。東奔西走の毎日だったが、県や市からの資金援助も多額に頂戴し、7月末でなんとか無事目標額を達成できたときは本当にホッとした。

今回の大会ではとりわけマスコミのご協力が有り難かった。ＮＨＫには2日間の生放送を早々に決定していただき、これが広告費の価値を倍加することになったといっていい。中国新聞には連日特大記事で取り上げてもらい、民放各社にもさまざまな特集番組を組んでいただいたが、特に私が嬉しかったのはＨＴＶが「裏方さん頑張る」という番組で、連日早朝から深夜まで頑張る裏方さんの行動を特集していただいたことだ。ボランティアとして大会運営にご協力いただいた裏方さんは延べ220人にも達し、不平不満も洩らさず大会を陰で支えて下さったご苦労

に感謝したい。
参加国のホテルの割り振りには思いのほか神経を使った。政治的に問題を抱える国と国、あるいは食事の面なども配慮せねばならなかった。特にアラビア諸国の食事にはホテル側も大変苦労されたようだ。
ポークはダメーは常識だが、ビーフも食べない国がある。さりとて魚料理は高くつくし……で、主にチキン中心の料理となったか、われわれの知っている範囲のチキン料理はカラ揚げ、蒸し焼き、天ぷら、カレー煮、フライなど。ホテル側もいろいろアレンジし対応してもらったにもかかわらず、選手たちからは「毎日同じ料理が出る」とクレームが出る始末。直接出向いてたずねてみると、彼らの国では、同じチキンでも香辛料の使い方ひとつで何十種類もの料理があるそうで、こちら風の料理ではほとんど同じものに見えるらしく、もの足りないということだった。勝手気ままとは一口に片づけられぬ問題でもあろうが、その点東南アジアのチームは「すべてに申し分なし」との好評を頂戴する。
問題は選手、関係者の輸送力だろう。広島のホテルにはバス専用の駐車場がなく、３年後のアジア競技大会では、問題点として大きくクローズアップされることになるのではないか。各１台のバスを常時キープする必要があり、試合、練習、相手チームの試合研究などのための見学など、行動が実に激しく、今回の大会でも正直なところバスの手配の時間が若干ズレたり、会場、ホテルを間違ったりのミスも生じている。
アジア競技大会は参加38カ国、選手、役員延べ約７０００人と伝えられているが、10月開催といえば折りしも観光シーズン、どこからどれだけのバスをチャーターできるか、駐車場施設をどう確保するかは、相当ハラをくくって早くから取り組む必要があるように思う。
また、もうひとつのキーポイントはボランティア対策だ。今回動員したさまざまなボランティアは合計２２０人、そのうち通訳が38人を数えたが、ちょうど夏期休暇中だったことも幸いして広島大、修道大、広島経済大、広島工業大の英文、国際科系の女子学生が中心となり、朝早くから夜遅くまでチームに帯同して多大の貢献をしてくれた。
アジア競技大会では、シーズンからみてこれら学生たちに大きな期待は禁物で、一般主婦や外国人家庭および一部留学生を主力対象に、多大の協力を仰がねばなるまい。
通訳だけで最低５００人は必要となりそうで、英会話を中心に早くから十分の予習が必要だ。日常会話だけでなく、役員会議、審判会議など、会期中に運営上の決めごと、相談ごとが頻繁で、通訳の能力が問われる場面が多いことも痛感した。
ともあれ、大会では男女とも韓国の優勝となり、日本は男女ともに2位、オリンピック出場は成らなかったことは残念だったが、今大会での成果は十分、大成功だったとご報告できる。
大会後、会長不在だったアジア・オリンピック評議会（ＯＣＡ）の新会長に、このたび来広されたクウェートのシェイク・アーセド・アッ・サバハ副会長が選出されたとのニュース。３年後のアジア大会に大きな期待を表明して報告を終わりたい。

第20回 全国中学校大会

第20回全国中学校大会は、8月19日から22日まで熊本県立総合体育館に熱戦をくり広げた。
男子は松橋がせり勝って2年ぶり3回目の優勝を飾った。女子は初出場の沖縄・浦添が愛知・城山を破って初優勝。

男子

▼1回戦

- 蓮田（埼玉）18（6−8, 12−5）13 介島（高知）
- 春日井中部（愛知）20（11−7, 9−4）11 総社西（岡山）
- 高丘（兵庫）24（14−8, 10−3）11 東月寒（北海道）
- 北川（宮崎）16（7−4, 9−2）6 氷見北部（富山）
- 板津（富山）25（10−4, 15−6）10 富岡南（群馬）
- 花畑（福岡）15（7−7, 8−6）13 修道（広島）
- 松橋（熊本）26（12−9, 14−8）17 尾花沢（山形）
- 南八下（大阪）22（11−8, 11−0）8 笹川（三重）

▼2回戦

- 春日井中部 22（6−8, 11−9, 3−0, 2−3）20 蓮田
- 高丘 14（7−7, 7−5）12 北川
- 板津 13（8−2, 5−4）6 花畑
- 松橋 22（13−6, 9−11）17 南八下

▼準決勝

- 春日井中部 22（13−5, 9−8）13 高丘
- 松橋 20（13−6, 7−13）19 板津

▼決勝

- 松橋 21（11−11, 10−9）20 春日井中部

女子

▼1回戦

- 浦添（沖縄）17（9−4, 8−2）6 光陽（福井）
- 上町（大阪）20（10−1, 10−6）7 山田（香川）
- 鶴城（熊本）23（12−3, 11−6）9 亀山（三重）
- 花園（千葉）17（12−0, 5−6）6 富山（岡山）
- 城山（愛知）13（6−7, 7−5）12 伊奈東（茨城）
- 御幸（石川）15（5−7, 6−4, 1−2, 3−1）14 豊中十（大阪）
- 松橋（熊本）28（11−2, 17−3）5 的場（北海道）
- 下松（山口）18（7−2, 11−4）6 二瀬（福島）

▼2回戦

- 浦添 14（8−4, 6−7）11 上町
- 花園 15（8−7, 7−6）13 鶴城
- 城山 13（6−6, 7−3）9 御幸
- 下松 17（6−2, 11−5）7 松橋

▼準決勝

- 浦添 15（6−5, 5−6, 1−0, 3−3）14 花園
- 城山 15（6−6, 9−4）10 下松

▼決勝

- 浦添 18（9−6, 9−6）12 城山

得	〔浦添〕		〔花園〕	得
0	玉城	GK	岩井	0
0	渡久山		藤井	0
0	東江		井上	0
0	仲宗根		庄司	0
0	桃原	FP	川口	3
0	金城		手塚	6
0	平良	審	橋田	4
	宮城	・	岡田	1
	田仲	松島	香月	0
3	山田	新荘	小玉	0
6	西原		田中	0
0	金城		五井	0
4	佐久川		庄司	0
2	具志		関口	0
0	佐久川		打越	0
15	(1)	PT	(4)	14

得	〔春日井〕		〔高丘〕	得
0	安藤	GK	絹山	0
0	小池		山辺	0
1	小原		秋山	1
5	本多		今宮	4
0	宮本	FP	丁野	0
1	佐瀬		池田	2
2	長山	審	浅野	0
5	友松	・	高見	3
2	高野	北島	杉本	3
4	山本	建岡	原田	0
1	長谷川		赤木	0
0	宮治		杉尾	0
0	中川		汐碇	0
1	安藤		山崎	0
0	野呂		山川	0
22	(0)	PT	(0)	13

得	〔城山〕		〔下松〕	得
0	北村	GK	松本	0
			富原	0
1	保母		岡田	1
12	永宮		武居	0
0	鈴木	FP	原田	2
0	笹本		冨田	2
2	藤田	審	田辺	2
0	水野	・	高橋	3
0	吉武	高橋	古城	0
0	白崎	井上	後藤	0
0	水谷		岩本	0
			松尾	0
			牧野	0
			宮原	0
15	(1)	PT	(0)	10

得	〔松橋〕		〔板津〕	得
0	元田	GK	倉	0
0	沖田		大橋	0
0	池川		小川	2
0	岡崎		加藤	2
2	緒方	FP	江指	4
0	村上		伴	3
0	森田	審	中谷	4
4	小川	・	池之上	4
11	上田	高橋	西	0
0	林田	井上	高田	0
3	松本		戸田	0
0	内山		北島	0
0	平井		中林	0
0	猿渡		東	0
0	園田		新木	0
20	(0)	PT	(0)	19

得	〔浦添〕		〔城山〕	得
0	玉城	GK	北村	0
0	渡久山			
0	東江		保母	2
0	仲宗根		永宮	9
0	桃原	FP	鈴木	0
0	金城		笹本	1
0	平良	審	藤田	0
1	宮城	・	水野	0
0	田仲	北島	吉武	0
3	山田	建岡	白崎	0
6	西原		水谷	0
0	金城			
3	佐久川			
1	具志			
4	佐久川			
18	(1)	PT	(2)	12

得	〔松橋〕		〔春日井〕	得
0	元田	GK	安藤	0
0	沖田		小池	0
0	池川		小原	0
0	岡崎		本多	7
3	緒方	FP	宮本	1
3	村上		佐瀬	1
0	森田	審	長山	2
1	小川	・	友松	0
7	上田	松島	高野	7
0	林田	新荘	山本	2
1	松本		長谷川	0
6	内山		宮治	0
0	平井		中川	0
0	猿渡		安藤	0
0	園田		野呂	0
21	(0)	PT	(0)	20

各地の記録から…

東北

国体少年の部青森県予選

（7月13、14日／今別高校）

〈少年男子〉

▼1回戦

野辺地 28－15 野辺地工
青森商B 18－11 七戸
今別A 24－12 青森東
県南選抜 25－12 青森
青森山田 33－7 柏木農
青森南 14－8 十和田工
今別B 14－11 三本木
青森商A 50－2 三本木農

▼2回戦

野辺地 28－19 青森商B
今別A 26－9 県南選抜
青森山田 28－13 青森南
青森商A 34－8 今別B

▼準決勝

野辺地 25－18 今別A
青森商A 34－10 青森山田

▼決勝

青森商A 26（11－7、15－8）16 野辺地

〈少年女子〉

▼1回戦

青森西B 15－11 青森商
六ヶ所 21－6 三本木

▼2回戦

青森中央A 29－6 青森西B
野辺地 33－3 青森東
今別 35－11 青森中央B
青森西A 35－11 六ヶ所

▼準決勝

青森中央A 18－11 野辺地
青森西A 28－6 今別

▼決勝

青森西A 16（9－8、7－7）15 青森中央A

関東

第45回千葉県中学校総体

（7月26、28日／市川塩浜体育館）

〈男子〉

▼1回戦

福栄 18－8 葛飾
花見川二 16－15 南流山
東邦 16－8 野田一
花園 20－3 入船
河原塚 24－20 松葉

▼2回戦

妙典 25－6 福栄
柏南部 10－5 花園
東邦 25－8 花見川二
逆井 25－7 河原塚

▼準決勝

妙典 18－7 東邦
逆井 18－11 柏南部

▼決勝

妙典 18（9－6、9－7）13 逆井

〈女子〉

▼1回戦

昭和 15－10 東邦
若松 17－5 葛飾
二宮 20－0 小金北
逆井 11－1 西志津
市川二 9－5 湖北台
小見川 5－4 白井

▼2回戦

花園 24－4 昭和
二宮 15－6 若松
逆井 10－6 市川二
野田一 16－5 小見川

▼準決勝

花園 17－6 二宮
野田一 18－8 逆井

▼決勝

花園 21（12－4、9－3）7 野田一

全国高校総体東京都予選

（日程・場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

学大付属 17－10 石神井
開成 7－0 広尾
江戸川 43－16 白鴎
本所 32－8 向丘
東大和南 19－9 小金井北
館 30－3 稲城
桜美林 22－8 武蔵村山
東 14－12 青山
専大附属 24－14 大崎
早大学院 29－16 武工大附
羽村 19－11 南平
創価 19－11 日野
富士森 32－18 武蔵
西 23－13 早実
目黒 13－12 日大二
佼成 14－12 大泉北
福生 18－13 拝島
東大和 7－0 昭和
昭和第一 33－12 片倉
杉並 26－13 紅葉川
巣鴨 22－13 高島
蒲田 13－11 駒込
日野台 15－10 科学技術学園
府中東 31－1 田無工
上野 22－20 淵江
豊多摩 15－11 深川
桜水商 26－9 南
調布北 38－5 久留米
永山 19－10 武蔵村山東
城北 29－10 足立
荻窪 20－16 城西
葛飾野 11－9 杉並工
秋川 7－0 野津田
東村山 20－10 小平南
田無 14－12 秋留台
筑波大駒場 14－10 井草
安田学園 12－11 駒大高
江北 18－13 世田谷工
神代 31－12 武蔵野北
砂川 28－4 小金井工
保谷 28－6 北多摩
雪谷 21－3 武蔵丘
墨田川 34－1 江東工
青山学院 13－12 大泉

中大附 7－0 五商
国立 39－0 忠生

▼2回戦

学大付 28－10 開成
本所 20－19 江戸川
東大和南 27－15 館
桜美林 34－22 山崎
修徳 29－4 東
専大附 25－18 早大学院
創価 18－13 羽村
府中 31－14 富士森
日体荏原 21－16 西
目黒 34－12 佼成
東大和 23－7 福生
八王子東 15－12 昭和第一
光丘 15－10 杉並
巣鴨 19－14 蒲田
南野 26－7 日野台
清瀬 21－17 府中東
上野 13－11 富士
豊多摩 19－7 桜水商
調布北 13－8 府中西
錦城 22－10 永山
荻窪 17－10 城北
両国 21－7 葛飾野
東村山 26－13 秋川
立川 31－4 田無
小岩 21－15 筑波大駒場
安田学園 15－12 江北
神代 26－8 砂川
東海大菅生 30－20 保谷
大森東 18－14 雪谷
青山学院 16－13 墨田川
中大附 21－16 久留米西
国立 39－4 南多摩

▼3回戦

本所 26－17 学大付
東大和南 23－14 桜美林
修徳 33－10 専大附
府中 29－21 創価
日体荏原 23－12 目黒
八王子東 17－13 東大和
巣鴨 15－14 光丘
南野 25－20 清瀬
豊多摩 13－6 上野
調布北 14－13 錦城
両国 12－11 荻窪
立川 19－6 東村山
小岩 23－19 安田学園
東海大菅生 18－14 神代
青山学院 24－14 大森東
国立 15－12 中大附

▼4回戦

本所 18－15 東大和南
府中 18－17 修徳
日体荏原 28－11 八王子東
南野 35－13 巣鴨
調布北 20－12 豊多摩
立川 26－11 両国
東海大菅生 23－13 小岩
国立 29－11 青山学院

▼5回戦

東京 32－11 本所
拓大一 21－14 府中
日体荏原 18－16 農大一
国分寺 28－16 南野
成城 22－18 調布北
立川 20－17 新宿
三鷹 19－17 東海大菅生
明星 26－8 国立

▼6回戦

拓大一 20－17 東京
日体荏原 14－13 国分寺
立川 22－17 成城
明星 24－17 三鷹

▼決勝リーグ

拓大一 22－13 日体荏原
明星 32－13 立川
拓大一 22－12 立川
明星 25－5 日体荏原
日体荏原 15－15 立川
明星 20－18 拓大一

〔順位〕①明星②拓大一③日体荏原④立川

〈女子〉

▼1回戦

日野台 15－4 府中西
南平 17－8 羽村
国分寺 38－13 拓大一

▼2回戦

農大一 8－4 上野
桐朋女 20－2 武蔵村山東
清瀬 14－4 明星学園
東 16－9 西
小岩 13－12 学大付
福生 4－2 武蔵野北
小金井北 12－3 明泉鶴川
光丘 7－0 広尾
久留米西 13－6 富士森
日野台 9－2 神代
東大和 31－2 農業
府中 15－3 小平
日大二 11－5 白鴎
富士 36－1 順大
青山学院 18－6 大崎
蒲田 25－6 立教女
国立 不明 調布北
八王子東 23－3 武蔵
砂川 16－15 共立第二
東海大菅生 27－5 南平
五商 不明 野津田
府中東 6－5 南野
保谷 17－8 東大和南
東村山 不明 館
井草 13－0 目黒
本所 11－6 淵江
田無 18－9 文華女
武蔵野女 13－12 国分寺
江戸川 8－2 雪谷
一商 5－4 墨田川

▼3回戦

石神井 13－8 農大一
桐朋女 22－11 清瀬
小岩 20－4 東
小金井北 8－7 福生
豊多摩 14－7 光丘
久留米西 12－3 日野台
府中 20－7 東大和
富士 20－6 日大二
青山学院 16－8 蒲田
八王子東 14－6 国立
東海大菅生 9－7 砂川
五商 6－5 府中東
保谷 36－2 東村山
本所 6－5 井草
武蔵野女 9－8 田無
江戸川 18－4 一商

▼3回戦

石神井 11－10 桐朋女
小岩 14－7 小金井北
久留米西 16－6 豊多摩
富士 17－10 府中
青山学院 8－4 八王子東
東海大菅生 13－8 五商

保谷 18－7 本所
武蔵野女 22－7 江戸川

▼4回戦
文大杉並 23－8 石神井
藤村女 27－2 小岩
日体桜華 20－2 久留米西
菊華 18－9 富士
江東商 14－5 青山学院
日野 11－4 東海大菅生
八雲 13－5 保谷
武蔵野女 11－9 佼成女

▼5回戦
藤村女 17－13 文大杉並
日体桜華 18－17 菊華
江東商 17－12 日野
八雲 15－11 武蔵野女

▼決勝リーグ
藤村女 23－14 日体桜華
江東商 18－13 八雲
藤村女 16－13 八雲
江東商 19－14 日体桜華
日体桜華 17－14 八雲
藤村女 15－12 江東商

〔順位〕①藤村女②江東商③日体桜華④八雲

第26回群馬県中学総体

（7月30日～8月1日／前橋市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
矢中 16－7 元総社
富岡東 23－8 桐生東
下仁田西 14－12 藤岡南
甘楽三 40－6 松南
相生 25－10 南八幡
藤岡北 16－12 富岡西
富岡南 24－10 前橋一

▼2回戦
富岡 20－5 矢中
富岡東 14－9 下仁田西
甘楽三 19－14 相生
富岡南 14－8 藤岡北

▼準決勝
富岡 18－11 富岡東
富岡南 23－13 甘楽三

▼決勝
富岡南 16（9－7、7－5）12 富岡

〈女子〉

▼1回戦
矢中 20－3 桐生東

▼2回戦
富岡南 19－10 矢中
富岡 24－2 松南
富岡東 27－4 塚沢
高南 20－5 相生

▼準決勝
富岡南 16－6 富岡
高南 17－14 富岡東

▼決勝
富岡南 16（6－6、10－1）7 高南

第3回千葉県中学校1年生大会

（9月29、30日／逆井中学）

〈男子〉

▼1回戦
野田一 10－6 入船
松葉 17－7 逆井
南流山 14－13 柏南
流山南 16－9 花園
若松 18－3 木間ヶ瀬

▼2回戦
妙典 13－11 野田一
松葉 17－5 南流山
二宮 10－7 流山南
若松 11－9 大州

▼準決勝
松葉 19－2 妙典
若松 16－7 二宮

▼決勝
松葉 23（10－1、13－1）2 若松

〈女子〉

▼1回戦
白井 7－6 東国分
聖徳 4－1 西志津
湖北台 5－2 野田一
若松 12－7 市川二
磯辺二 12－0 二宮

▼2回戦
昭和 12－1 白井
湖北台 12－0 聖徳
若松 7－6 逆井
花園 9－7 磯辺二

▼準決勝
昭和 8－3 湖北台
花園 13－5 若松

▼決勝
花園 6（2－2、4－1）3 昭和

東海

岐阜地区高校総体

〈男子〉

▼1回戦
岐阜南 18－17 羽島北
県岐阜商 20－6 岐陽
岐阜北 20－16 岐阜工
岐阜西工 18－7 加納
各務原西 19－11 各務原東
各務原 16－15 岐山
市岐阜商 40－11 長良

▼2回戦
岐阜東 25－6 岐阜南
県岐阜商 32－11 岐阜北
岐阜西工 14－9 各務原西
市岐阜商 32－2 各務原

▼準決勝
県岐阜商 13－12 岐阜東
岐阜西工 12－9 市岐阜商

▼決勝
岐阜西工 17（6－5、11－6）11 県岐阜商

〈女子〉

▼1回戦
岐山 24－2 長良
各務原 9－9 羽島北（2 PTC 1）
各務原西 13－10 岐阜北

▼2回戦
富田 39－5 岐山
加納 28－5 各務原東
各務原 18－7 各務原
県岐阜商 13－10 本巣

▼準決勝
富田 26－5 加納
県岐阜商 22－11 各務原西

▼決勝
富田 23（12－9、11－10）19 県岐阜商

第15回全日本教職員ハンドボール連盟研究発表会レポート

全日本教職員ハンドボール連盟
佐藤　靖

はじめに

毎年、全日本教職員ハンドボール選手権大会の折に開催されている研究発表会は、今年度の山形県での大会で15回目を迎えた。

今回の研究発表会は、平成3年8月8日、東根市および尾花沢市での大会競技開始前日、東根市民体育館で開催された。ここでは研究発表会の内容をレポートする。

バラエティーに満ちた発表会

研究発表会は約1時間にわたり、1人当たり6分の発表時間で行われた。8件の資料に基づく口頭発表と、2件の資料配布があり、内容的に多様な発表会となった。以下、関連領域にまとめた上で、各研究および報告の概要を記す。

▼学校体育に関するもの

『学校体育におけるハンドボールの指導について』茨城・大西武三

球技の楽しさを、技能（道具）をもち、場面に応じてそれを使いこなす（判断力）ことの2点から述べ、楽しさだけに終始しない、技能の上達とゲームの発達を目指した難しさの指導法を模索した。難しさを、判断力のとらえ方、分習のゲームへの結び付け方、技能の指導順、動作のポイントの押え方等の観点から整理した上で、ハンドボールの指導方法上の問題点や工夫等を具体的に示した。

『ハンドボールの指導方法に関する研究―Alberti, Rothenbergのゲーム系統の基本モデルに従って』山形・菅井敬子、秋田・佐藤　靖

楽しいゲームを中心とし、各年齢段階に応じて技術や戦術をも高度化させ、最終的にハンドボールゲームを習得させるための方法を、ドイツで代表的な方法学的ゲーム系統の一般理論に基づきながら検討した。そしてハンドボールの具体的ゲーム系統を例示し、その有効性を示した。

『ラグビーハンドボールの授業実践』愛知・大橋光三

すべての児童を楽しく力いっぱいゲームに参加させ、しかも得点する楽しさを味わせることを目的としたラグビーハンドボール（ボールを持っての歩数制限にこだわらないルール）の授業実践の成功例を報告した。その中でスポンジボールの使用やシュートゲームの有効性等を指摘した。

▼技術、戦術の分析に関するもの

『スウェーデンの攻撃構想―'90世界選手権大会決勝より』東京・笹倉清則

変形5：1防御に対するスウェーデンの攻撃戦術を分析し、戦術的な3つの意図（前にいる防御者をフローターから遠去ける、その防御者の後方を攻める、サイドからの移行後の共同活動によるグループ戦術）に従った解決法を幾つか示した。特に、これらが数的優位状況や最終局面等において重要な攻撃となることを指摘した。

『ハンドボールにおけるゴールキーパーのキーピングパターンについて』山形・佐藤　功

実際のゲーム場面において、GKのシュート阻止動作が、どのような型で、どのような割合で現れるかを昭和57年度のインカレ等で調査、分析した。様々なシュートに対応するために、多様なキーピングの準備と同時に、特に能動的な対応の必要性を指摘した。

▼指導者養成に関するもの

『スポーツ指導員の養成について』福島県・遠藤　均

平成2年度福島県で開催された（財）日本体育協会C級スポーツ指導者養成講習会の内容を報告した。特にジュニア層のレベルアップをねらいとしたところ、テキスト作成やそれに基づく議論等により、勉強会としての性格を持たせたことが成果をあげたと指摘した。

▼ルールに関するもの

『ルールの変遷　PartⅠ』東京・村松　誠

昭和35年から平成元年までに発行された競技規則集におけるルール条項の表記と項目数の変遷を示した後で、昭和9年から平成元年までの各条項の内容に関する特記すべき変化を具体的に調べ、ルール変遷史として考察した。

▼スポーツ障害に関するもの

『膝痛』大阪・岡本克彦

膝に関する解剖と生理、疾病と障害、そして診断と治療に至るまでの正しい知識を図示と写真により具体的に解説した。

▼国際情勢に関するもの

『世界のコーチング状況』東京・平岡秀雄

『世界のレフェリング状況』東京・大塚文雄

両氏所用のため、資料が配布された。それは両氏が1991年5月21日から25日まで、アテネで開催されたIHFコーチ・審判長シンポジウムに参加した際の様子を伝えている。参加者全員が長時間熱心に討議し、世界選手権の分析から、ルール改正案の説明、さらにバイオメカニクス的な分析等意義あるものであったと報告している。

現場からの報告に期待する

会の総括として、荒川清美日本協会副会長から、参加者の関心の高まりを感じるとの感想を戴いた。

以上のように盛会裏に終了できたが、さらに会を充実するためにこれまでご尽力下さった山田　計旧会長の後、高橋健夫新会長を柱とした連盟は、現在、諸問題の整理に取り掛かっている。

特に、研究会についての問題は山積しているが、大西武三研究部長を中心とする新しい研究協力体制で、ますます実践に資する研究の充実の気運が高まって来た。研究という体裁にとらわれない、現場の指導者からの生の報告に期待したい。尚、詳細は来年度発行の連盟紀要を参照して戴きたい。また、紀要に関する問い合せは左記にご連絡下さい。日本女子体育大学　笹倉清則（TEL03―3300―2251）

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三一四号
昭和四十年六月七日　平成三年十月二十六日　印刷
第三種郵便物認可　平成三年十一月一日　発行
東京都渋谷区神[illegible]一－一－一
電話　代表（418）二二三六一
振替　東京　六－五八三四八番
編集兼発行人　安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）